

大阪湾再生行動計画（第二期） 平成29年度の取り組み成果

平成30年3月

大阪湾再生推進会議

目次

I	大阪湾再生行動計画（第二期）について	1
1.	大阪湾再生の理念・意義	1
(1)	理念	1
(2)	意義	1
2.	経緯	2
3.	第二期計画について	3
(1)	全体目標	3
(2)	目標要素	3
(3)	施策	3
(4)	評価指標	3
(5)	目標要素・施策・評価指標の関係	4
(6)	目標達成状況の評価	4
(7)	アピールポイント	4
(8)	計画期間	4
II	平成29年度の取り組み成果	5
1.	目標達成状況	5
(1)	美しい「魚庭（なにわ）の海」	5
1)	取り組みの状況	7
2)	評価結果	19
(2)	親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」	31
1)	取り組みの状況	32
2)	評価結果	36
(3)	豊かな「魚庭（なにわ）の海」	38
1)	取り組みの状況	39
2)	評価結果	44
2.	平成29年度の重点的な取り組みの成果	51
3.	アピールポイントでの活動状況	52
(1)	アピールポイントの設定状況	52
(2)	アピールポイント毎の状況	53

I 大阪湾再生行動計画（第二期）について

1. 大阪湾再生の理念・意義

(1) 理念

大阪湾の環境の改善（多様な生物の生息・生育、人と海との関わりの増大）に向けて、多様な主体の連携・参画（空間ネットワーク及び人的ネットワークの充実・強化）により、森・川・里・都市・海等の取り組みの輪を広げ、効率的・効果的な取り組みの推進を図り、大阪湾の再生とともに新しい大阪湾の創出を目指す。

(2) 意義

1) 多様な生物の生息・生育

- ・ 生物多様性を確保する
- ・ 生物の生産性を確保する

2) 人と海との関わりの増大

- ・ 体験学習等の機会創出により豊かな人材を育成する
- ・ 水に親しむ機会創出により生活の質を高める
- ・ 大阪湾の文化を観光資源につなげる

3) 空間ネットワーク及び人的ネットワークの充実・強化

- ・ 空間（森・川・里・都市・海等）ネットワークの充実・強化
- ・ 人的（多様な主体、各世代のつながり）ネットワークの充実・強化

2. 経緯

- 平成 13 年 12 月：都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け（都市再生プロジェクト（三次決定））
- 平成 15 年 6 月 26 日：都市再生本部会合において、『大阪湾再生推進会議（仮称）』を設立して大阪湾再生に取り組む予定」とされた。
- 平成 15 年 7 月 28 日：関係省庁及び関係地方公共団体等^{注)}が「大阪湾再生推進会議」を設置
- 平成 16 年 3 月 26 日：「大阪湾再生行動計画」を策定
- 平成 16 年度：毎年の実施状況についてフォローアップを実施
- 平成 19 年度：行動計画策定後 3 か年の取組状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施
- 平成 20 年度：中間評価結果を基に、「大阪湾再生行動計画（第 1 回改訂版）」の策定
- 平成 22 年度：行動計画策定後 6 か年の取組状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施
- 平成 25 年度：行動計画策定後 10 か年の取組状況、目標の達成状況について「最終評価」を実施
- 平成 26 年 5 月：「大阪湾再生行動計画（第二期）」を策定

^{注)} 大阪湾再生推進会議：内閣官房 地域活性化統合事務局（旧：内閣官房都市再生本部事務局）、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、一般財団法人 関西観光本部、大阪湾広域臨海環境整備センターで構成（注：経済産業省は平成 17 年 3 月、堺市は平成 18 年 3 月、大阪湾広域臨海整備センターは平成 26 年 5 月から参画）

3. 第二期計画について

(1) 全体目標

森・川・里・都市・海等のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

(2) 目標要素

全体目標の達成に向け、多様な主体の参画や協働を促し、各方面での取り組みをより強力に推進するため、全体目標を更に分かりやすく身近で具体的なイメージに展開し、多様な主体がそれらのイメージを共有することが必要となる。

したがって、以下の通り、全体目標の要素を抽出・具体化した「目標要素」を設定する。

美しい「魚庭（なにわ）の海」

- ・水辺を快適に散策できる海（湾奥部）
- ・水に快適に触れ合うことができる海（湾口部、湾央部）

親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」

- ・水辺に容易に近づける海
- ・魅力的な親水施設や多彩なイベントがある海
- ・市民や企業が積極的に関わる海

豊かな「魚庭（なにわ）の海」

- ・多様な生物が生息し、豊富な海産物の恵みが得られる海

(3) 施策

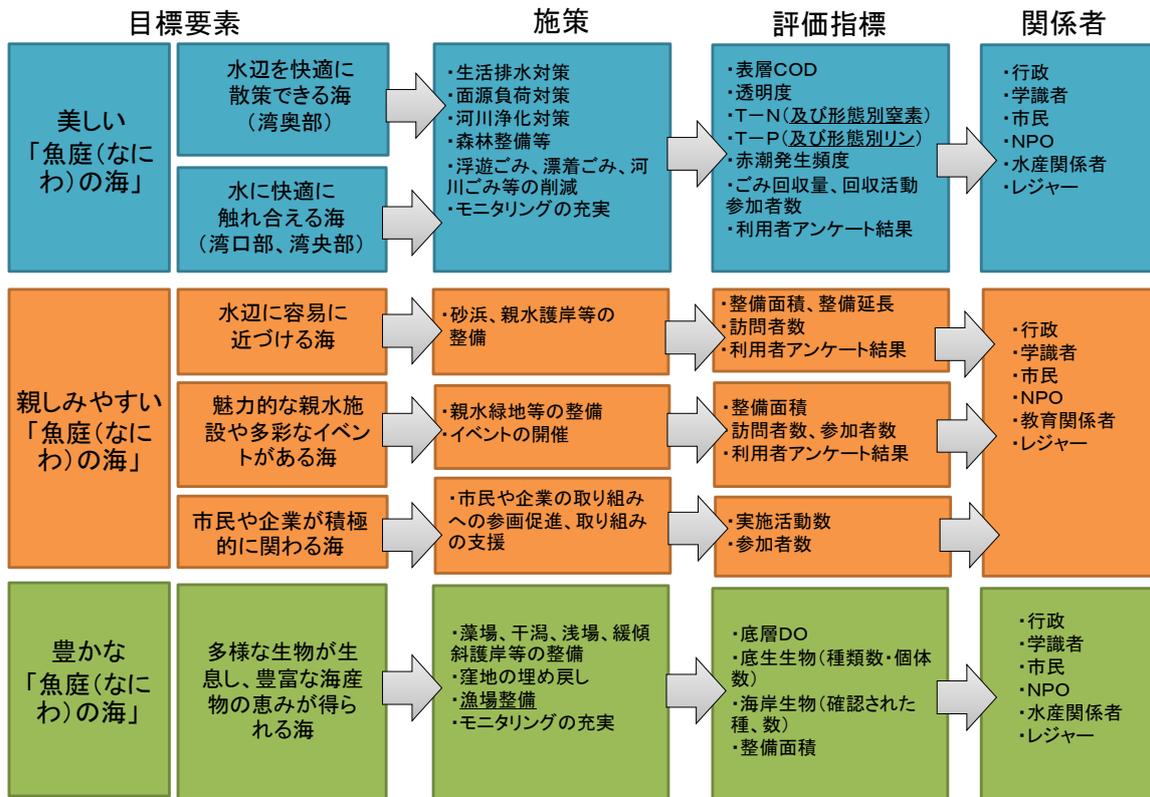
目標要素を達成するための施策を実施する。

(4) 評価指標

目標要素について、定量的な水環境の改善状況や施策の進捗状況を把握・評価するものとして、「評価指標」を設定する。

(5) 目標要素・施策・評価指標の関係

目標要素・施策・評価指標の関係については、下記のとおりである。



※下線は第一期計画から追加された施策、評価指標

※大阪湾再生行動計画(第二期)に記載している「下層DO」は「底層DO」として環境基準化がなされたため、名称を変更する。

(6) 目標達成状況の評価

目標の達成状況は、水質・生物等の環境の状況、取り組みの実施状況等の地域特性を踏まえ、評価指標の値の経年的な増減等で評価を行う。また、評価手法は評価結果を受けて適宜見直しを行う等、順応的に進捗状況を管理することとする。

(7) アピールポイント

大阪湾再生の取り組みを継続的に進めるためには、多くの市民の参画が不可欠となる。市民の参画を得ていくためには、まず大阪湾や大阪湾につながる森や川へ行き、親しみの持てる身近な場所として感じていただきながら、より良い環境にしていく意識を育むことにより、取り組みへの理解・関心につなげていくことが重要となる。

したがって、多くの人が訪れ、見て・遊んで・食べて・学ぶことにより、大阪湾や大阪湾につながる森や川についての理解を深められる場所を「アピールポイント」として設定し、情報を発信する。

(8) 計画期間

平成26年度から平成35年度までの10年間

Ⅱ 平成29年度の取り組み成果

1. 目標達成状況

(1) 美しい「魚庭（なにわ）の海」

<取り組みの状況>

▶ 生活排水対策

下水道の普及促進（大和川下流流域、南大阪湾岸流域、淡路地域等）により、下水道普及率は97.5%に増加（平成28年度）/高度処理施設の整備及び既存処理場の高度処理化により、高度処理普及率は57.0%に増加（平成28年度）/合流式下水道の改善事業を実施/農業集落排水事業を実施/流域住民参加の負荷削減対策（大和川水質改善強化月間）等を実施

▶ 面源負荷対策

生産性と調和しつつ環境負荷の軽減に配慮した環境保全型農業の実施/雨水浸透柵の設置により流出率の低減を実施/農業濁水発生抑制・流出防止のためのチラシ配布や啓発活動等を実施

▶ 河川浄化対策

河川浄化設備の維持管理や効率的な運用/モニタリング調査等を実施/浄化浚渫・覆土工を実施（西の湖、木浜内湖、寝屋川・平野川）

▶ 森林整備等

行政による森林整備事業・治山事業、及び市民、NPO、企業等の参画・連携による森林整備等を実施（整備面積：約8,011ha）/公共工事での間伐材等利用を推進

▶ 浮遊ごみ、漂着ごみ、河川ごみ等の削減

河川清掃活動等による河川ごみ対策（淀川水系、大和川水系等）を実施/市民・企業等との連携による海岸美化活動（成ヶ島クリーン作戦、海岸美化活動、アドプト・シーサイドプログラムなど）を実施/海域ごみ清掃事業を実施

▶ モニタリングの充実

大阪湾再生水質一斉調査等のモニタリングを実施/大阪湾奥部の海水循環技術の確立のための実証実験を実施/堺浜自然再生ふれあいビーチ、廃棄物最終処分場周辺海域等でのモニタリング調査を実施

▶ その他

公共用水域における水質及び底質のダイオキシン類の測定を実施

<評価結果>

- 表層CODについて、湾奥部の港湾区域周辺で、夏季には依然として快適な散策・展望の目安となる5mg/Lを超える海域がみられる。
- 透明度については、夏季には大きな変化はみられないが、冬季では、湾中に5m以上の海域が広がり、湾奥部付近で4m以下である。
- 窒素、リンについては、湾中～湾奥部において減少傾向がみられる。
- ごみ回収量については、2833.8t、清掃活動への参加者数は59,541人であった。さまざまな機関、団体等により、ごみ回収が実施されている。

<取り組みの成果>

- 湾奥部の港湾区域周辺では、依然として快適な散策・展望に適さないとされている水質の場所があり、今後とも取り組み推進が望まれる。一方で、窒素・リンは概ね減少傾向がみられる等、水質には変化がみられる。
- 湾口部や湾中部では、水質が悪化する夏季においても、散策・展望の面からは概ね良好な水質を維持している。
- 引き続き、積極的なごみ回収活動の実施が望まれる。

1) 取り組みの状況

a. 生活排水対策

- ▶ 汚濁負荷量の総量削減
 - ・第7次総量削減計画を実施（事業場に対する総量規制基準の遵守指導等）。[京都府、大阪府、兵庫県、奈良県]
 - ・第8次総量削減計画を策定。[京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県]

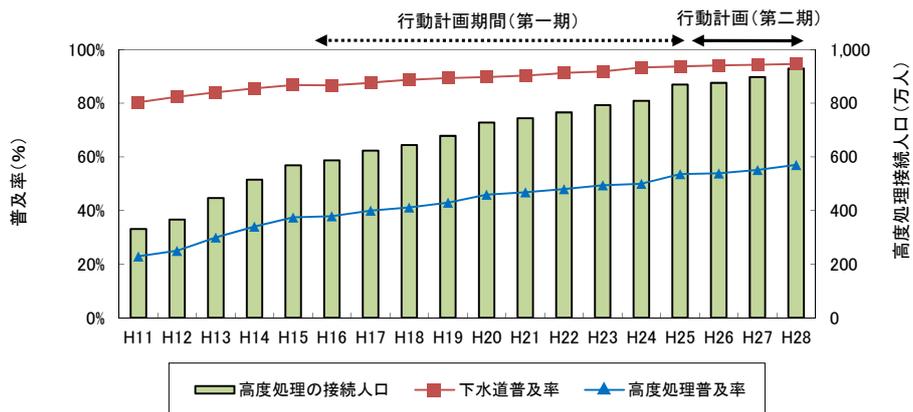
- ▶ 負荷削減のための計画策定・見直し、計画に基づく事業実施
 - ・琵琶湖に係る湖沼水質保全計画（第7期）に基づき、汚濁負荷削減対策を推進。[滋賀県、京都府]
 - ・環境の保全及び創造に関する施策の推進を図るため、奈良県環境基本条例に基づいた環境総合計画（平成28年度～）を点検、評価を実施。[奈良県]
 - ・「水洗化総合計画 2015～水環境政策のグランドデザイン～」による事業を継続実施。[京都府]
 - ・流域別下水道整備総合計画（大阪湾・淀川流域別、大阪湾流域別、大和川流域別、木津川流域別）に基づく事業（下水道の整備促進、高度処理、面源汚濁負荷対策等）を継続実施。[京都府、大阪府、奈良県、兵庫県]
 - ・寝屋川流域水環境改善計画に基づく水環境の改善に向けた事業（下水道の整備や接続の促進、事業所排水対策の徹底等）を継続実施。[大阪府]
 - ・大和川水質改善計画に基づく水環境改善事業（水質改善啓発活動、環境学習の推進、河川愛護活動を推進、奈良県山の日・川の日・川の日の清掃活動）を継続実施。[近畿地方整備局、奈良県]
 - ・将来的な下水道の施設計画（大和川上流・宇陀川流域下水道全体計画）に基づく事業（下水道の整備促進、高度処理等）を継続実施。[奈良県]
 - ・「大阪府生活排水処理計画整備指針」に沿った市町村における生活排水処理計画の策定・見直しの推進を働きかけ。[大阪府]
 - ・自治振興貸付事業及びコミュニティ・プラント基幹改修支援制度による、市町への生活排水処理施設の整備促進及びコミュニティ・プラントの基幹改修に対する一定の支援を継続実施。[兵庫県]
 - ・大阪市環境基本計画に基づいた水環境の目標実現のための施策（下水の高度処理、上流域と連携した取り組み等）を継続実施。[大阪市]
 - ・望ましい環境像の実現に向け定めた基本方針に基づき、市の環境施策を網羅する総合的な計画（神戸市環境基本計画）を策定し、健全な水環境の確保のために、公共下水道の整備や合流式下水道の改善、下水処理の高度化を継続実施。[神戸市]

➤ 負荷量の把握のための調査等

- ・発生負荷量等算定調査により、総量削減指定地域における発生負荷量の把握に必要なデータを調査し、指定水域ごとに毎年の発生負荷量等を算定。[環境省、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、(和歌山県)]
- ・合流式下水道吐口からの雨天時放流水質モニタリングを継続実施。[大阪府、奈良県、京都市、大阪市、堺市、神戸市]
- ・琵琶湖（赤野井湾）における流入汚濁負荷の実態把握調査を赤野井湾流域流出水対策推進計画に基づき、底質環境調査を継続実施。[滋賀県]
- ・大和川上流流域において、市町村別・支川別の発生及び排出汚濁負荷量を算出するためのシミュレーションを継続実施し、結果をHPで公開。[奈良県]

➤ 下水道の普及、高度処理の推進

- ・市町の整備計画にあわせた流域幹線の整備、浄化センターの増設、老朽施設の改築更新を継続実施。[滋賀県、大津市など]
- ・未整備地域における下水道の整備、普及促進を継続実施。[京都府、奈良県、大阪府、京都市、堺市、神戸市]
- ・高度処理の増設及び導入を促進。[京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、大阪府、大津市、神戸市]
- ・生活排水処理率の低い地域（淡路地域）を中心に面整備工事を継続実施。[兵庫県]
- ・施設の改築更新時に高度処理の導入事業を継続実施（平野下水処理場にA0処理法、海老江下水処理場と中浜下水処理場にMBRを整備中）[大阪市]
- ・下水道普及率は平成16年度の86.7%から平成28年度に97.5%へ増加。
- ・高度処理普及率は平成16年度の37.9%から平成28年度に57.0%へ増加。



※下水道普及率、高度処理普及率は大阪湾流域内人口に対する処理区域内人口の割合を示す。

図 1-1 下水道、高度処理の普及率、高度処理接続人口



西宮市甲子園浜浄化センター [兵庫県]

写真提供：兵庫県



なわて水みらいセンター [大阪府]

写真提供：大阪府

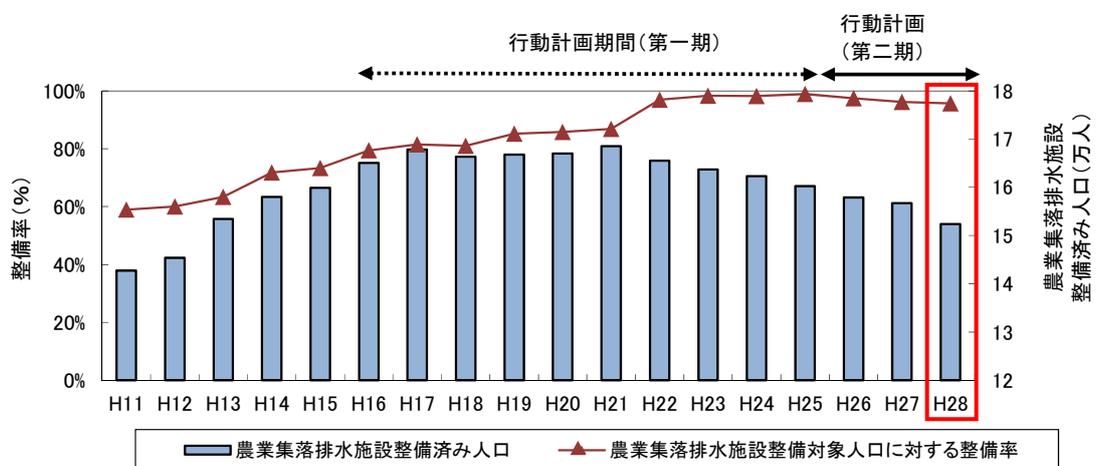
図 1-2 高度処理施設



図 1-3 高度処理化等取り組み施設 (平成 29 年度)

- 合流式下水道の改善
 - ・幹線の整備等による合流式下水道の改善を継続実施。[京都市]
 - ・公共用水域のための汚濁負荷削減、公衆衛生上の安全確保のため改善事業を実施。[大阪府]
 - ・雨水滞水池及び雨水貯留管の整備、高速ろ過の導入等を実施。[大阪市]

- 農業集落排水事業
 - ・農業集落排水施設の機能強化を実施。[近畿農政局、滋賀県、京都府及び兵庫県の関係市町村]
 - ・農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は9割以上を達成。
 - ・農業集落排水施設整備率は平成16年度の79.4%から平成28年度に95.7%へ増加。



※農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は整備計画人口に対する整備済み人口の割合を示す。

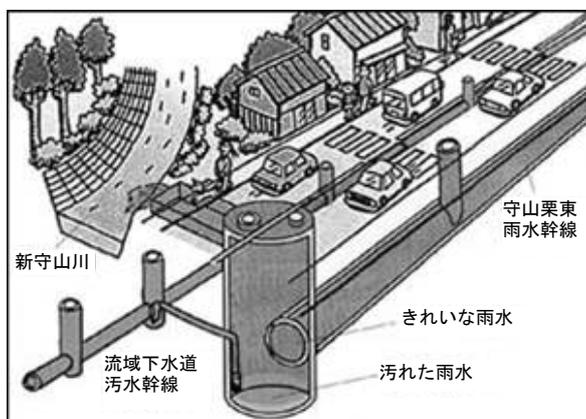
図 1-4 農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率等

- 浄化槽整備事業
 - ・浄化槽設置を行う個人、市町村に対して補助・交付を行う。[各自治体]

- 市民、NPO、企業等の参画による負荷削減対策
 - ・市民、NPO、企業等の参画による負荷削減対策として、大和川水質改善強化月間を実施。[大和川水環境協議会]

b. 面源負荷対策

- 負荷削減のための計画策定・見直し、計画に基づく事業実施
 - ・生産性と調和しつつ環境負荷の軽減に配慮した環境保全型農業の実施。[近畿農政局]
- 市街地排水対策
 - ・雨水幹線の整備（守山栗東雨水幹線整備事業）等により降雨時に流出する汚濁負荷の軽減を実施。[滋賀県、守山市、栗東市]
 - ・助成制度により一般家庭等を対象とした雨水貯留タンクの普及を促進。[大津市、草津市、守山市、東近江市、京都市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、亀岡市、八幡市、京田辺市、南丹市、木津川市、大山崎市、久御山町、宇治田原町、和束町、精華町、大阪市、堺市]
 - ・雨水浸透枳の設置により雨水の流出率の低減を実施。[京都市]



出典：日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会都市・流域部HP
(<http://jswe-nonpoint.com/1/case/examples/sg-2.html>)

図 1-5 雨水幹線のイメージ



図 1-6 一般家庭等に設置する雨水貯留タンクのイメージ

➤ 農業濁水対策

- ・ 農業濁水の発生抑制・流出防止のため、チラシ、巡回による啓発活動を継続実施。
[滋賀県]

c. 河川浄化対策

➤ 河川浄化施設の整備・維持管理

- ・ 河川浄化施設の維持管理により、河川の水質改善を行う。[近畿地方整備局]
- ・ 河川から赤野井湾へ流入する汚濁負荷（窒素、リン等）を削減するための植生浄化施設整備を実施。[滋賀県]
- ・ 大和川水系の河川浄化施設の維持管理を継続実施。[奈良県]

➤ 浄化浚渫・覆土等

- ・ 琵琶湖内湖の西の湖において 1.3ha (8,500 m³) (見込み) の浚渫工、木浜内湖において 0.11ha (2,200 m³) (見込み) の覆土工を実施。[滋賀県]
- ・ 平野川において約 0.26ha (約 2,600 m³) (見込み) の河川浄化浚渫を実施。[大阪府]



図 1-7 河川浄化浚渫・覆土実施場所



浄化浚渫の実施状況（西の湖）



覆土工完了（木浜内湖）

写真提供：滋賀県

図 1-8 河川浄化対策の実施状況

図 1-9 覆土工の実施状況

d. 森林整備等

➤ 行政による森林整備

- ・ 181ha の森林を整備（新植、下刈り、保育間伐等）（見込み）。[近畿中国森林管理局]
- ・ 3,100ha の森林を整備、保安林を新たに 500ha 指定（見込み）。[滋賀県]
- ・ 新たな保安林を 31ha 指定（見込み）。[大阪府]
- ・ 1,690ha の森林を整備、保安林を新たに 90ha 指定（見込み）。[京都府]
- ・ 間伐を約 3,264ha で実施（見込み）。[奈良県]
- ・ 森林の整備を継続。[兵庫県、兵庫県関係市町ほか]

➤ 市民・NPO、企業等の参画・連携による森林整備

- ・ 伊崎国有林の植樹箇所において 0.1ha の下刈作業を実施。[近畿中国森林管理局]
- ・ 箕面国有林において「オオクワガタの棲める森づくり」保育作業（下刈り、シカ防護柵補修、歩道整備、その他施設整備）及び箕面市内の小学校を対象にした森林環境教育（小学生 80 名、大学生 7 名）を継続実施。[近畿中国森林管理局]



写真提供：近畿中国森林管理局

図 1-10 下草刈り体験（伊崎国有林）と森林の探検（箕面国有林）の様子

- ・ 森林ボランティア団体の支援により 45ha（見込み）の森林を整備。びわ湖水源の森づくり月間を中心とした普及啓発活動や山を活かす交流会の開催、地域普及啓発活動を継続実施。[滋賀県]
- ・ 森林ボランティア団体の支援、企業の森づくり活動の自立支援、府民参加の森づくり活動の推進等により 101.5ha（見込み）の森林を整備。[京都府]
- ・ 森林ボランティア団体の支援として、森林・山村多面的機能発揮対策事業により 38 団体の里山保全活動を支援（見込み）、「森づくり委員会」の支援のためのサポート協議会を開催、1 社とのアドプトフォレスト協定を締結。[大阪府]
- ・ 県民参加の森づくりとして、NPO やボランティア団体の協力を得ながら里山林 9.37ha（二次林 6.69ha、竹林 2.68ha）（見込み）の整備を実施。[奈良県]
- ・ 森林ボランティア活動の支援として、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の運営、森林ボランティア講座、リーダー養成講座の開催、森林ボランティア活動

経費への支援を実施。[兵庫県]

- 平成 28 年度の森林整備面積は 8,262ha。うち、市民・企業等の参加による森林整備面積は 251ha。

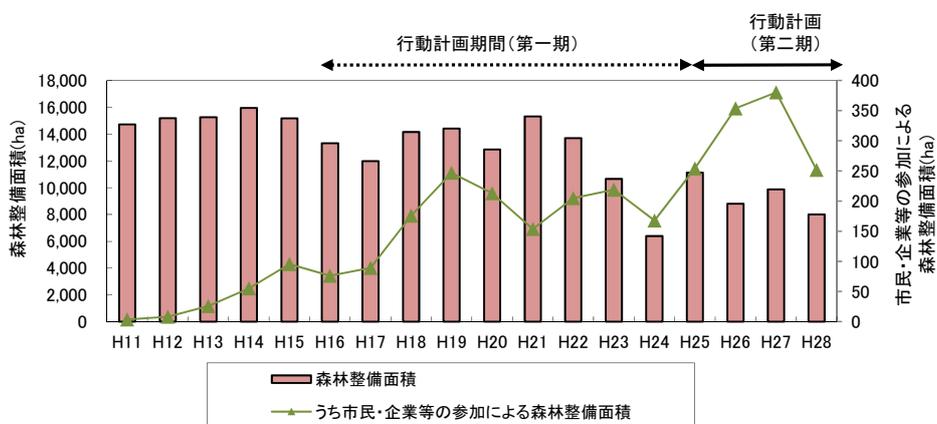


図 1-11 森林整備面積

➤ 木材の利用促進

- 「農林水産省木材利用推進計画」に基づき、木材利用を推進。[近畿中国森林管理局]
- 公共工事における府県産木材の利用を推進。[滋賀県、大阪府]
- 「京都府産木材認証制度」による地域の木材の利用を推進。[京都府]
- 「公共工事等にかかる間伐材の利活用検討会」を通じて 4,038 m³（見込み）の間伐材を利用。[奈良県]



写真提供：近畿中国森林管理局



写真提供：近畿中国森林管理局



写真提供：奈良県



写真提供：奈良県

図 1-12 公共工事における間伐材等の利用

e. 浮遊ごみ、漂着ごみ、河川ごみ等の削減

➤ 河川ごみ回収活動・啓発活動、河川清掃活動

- ・河川愛護月間等のイベント（大和川クリーンデー等）を通じた河川清掃活動を継続実施。[近畿地方整備局、関係府県、沿川市町村、企業、環境団体、地元住民等]
- ・大和川・石川クリーン作戦を継続実施。[大阪府、大和川河川事務所、沿川市町村]
- ・地域住民・民間団体・企業等と連携した大和川一斉清掃を継続実施。[奈良県、流域市町村、関係団体]
- ・滋賀県ごみの散乱防止に関する条例で定める「環境美化の日」を中心に県民、企業、行政が一体となった環境美化活動を継続実施、結果を一般公表。[滋賀県]
- ・環境美化監視員によるごみのポイ捨てに対する監視及び予防啓発等を継続実施（散在性ごみ対策事業）。[滋賀県]
- ・ボランティア団体等が河川等の清掃活動を行う場合の支援を継続実施（淡海エコフオスター制度、地域の河川サポート事業、住民団体支援事業）。[滋賀県、京都府、奈良県]
- ・集中的な美化活動・啓発活動（クリーンアップならキャンペーン月間）を継続実施、県内一斉の美化活動（ふるさと美化運動）を継続実施。[奈良県]
- ・県内各地で環境美化活動（クリーンアップひょうごキャンペーン）を継続実施。[兵庫県]

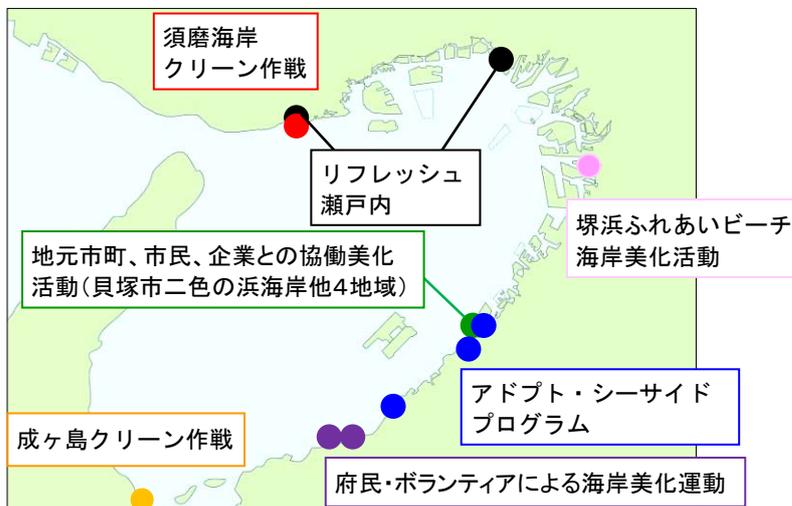


図 1-13 河川清掃活動の様子（奈良県）



図 1-14 地域の河川サポート事業の様子

- 市民、企業等との連携による海岸美化活動
 - ・海水浴シーズンの前後に須磨海岸クリーン作戦による海岸清掃を実施。[瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会など]
 - ・リフレッシュ瀬戸内キャンペーンによる海岸清掃美化活動を実施（須磨海岸、甲子園浜海岸など）。[瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会など]
 - ・地元市町、市民、企業との協働美化活動（貝塚市二色の浜海岸他4地域の海岸・港湾）で延べ831人が参加、府民・ボランティアによる海岸美化運動（せんなん里海公園、長松海岸）で延べ125人が参加。阪南1区、二色の浜海岸は雨天のため中止。[大阪府など]
 - ・成ヶ島クリーン作戦の実施による海岸漂着ごみ清掃活動で延べ200人が参加（見込み）。[近畿地方整備局、各自治体]
 - ・アドプト・シーサイドプログラムにおいて二色の浜海岸、脇浜海岸、福島海岸での清掃活動で延べ700人（10月末時点）が参加。二色の浜海岸は雨天のため中止。[大阪府、ボランティア団体、中学校など]
 - ・堺浜ふれあいビーチの海岸美化活動で延べ334人（10月末時点）が参加。[堺市]



※リフレッシュ瀬戸内についてはブロック拠点の実施箇所のみを示している。

図 1-16 海岸美化活動実施状況



写真提供：近畿地方整備局・大阪府
図 1-15 海面清掃兼油回収船による浮遊ごみ・油の回収

- ごみ回収量、組成分析調査
 - ・海域ごみ清掃事業により、海面に浮遊しているごみや漁港に流れ着いたごみ、海底に堆積しているごみなど 1,200m³ を回収（見込み）。[大阪府、(特非) 海域美化安全協会]
- 廃船・廃棄物・浮遊ごみ等の撤去
 - ・海面清掃兼油回収船による浮遊ごみ・油の回収を実施。[近畿地方整備局]
- 浮遊物の挙動解析システムの開発等
 - ・海洋レーダーでの汚濁機構の解明、流速計による明石海峡中央海域及び東側海域についての潮流観測を実施。[第五管区海上保安本部]
 - ・海洋短波レーダーや水質自動観測機器による、連続観測値のリアルタイム配信。流動水質シミュレーションモデルを用いた粒子追跡システムを運用。[神戸港湾空港技術調査事務所、神戸港湾事務所]

f. モニタリングの充実

➤ 大阪湾再生水質一斉調査

- ・大阪湾再生水質一斉調査を、36 機関が 550 地点で実施。[第五管区海上保安本部、神戸港湾事務所、自治体など]

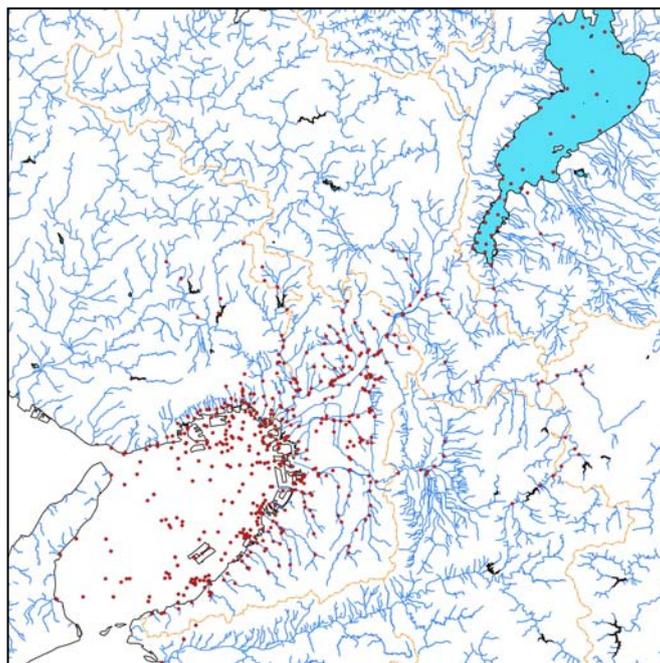


図 1-17 大阪湾再生水質一斉調査実施地点図

表 1-1 大阪湾再生水質一斉調査の実施状況

		← 行動計画期間（第一期）										→ 行動計画期間（第二期）			
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
海 域	地点	160	206	217	208	194	214	204	199	198	200	196	205	200	204
	機関	12	20	22	24	28	31	28	28	29	30	30	32	32	31
陸 域	地点	250	242	266	253	246	262	266	296	298	305	320	344	347	346
	機関	18	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	17	17	18

注) 機関数は、同一調査を1単位として集計したものであり、参加機関数と一致しない。

➤ 地球観測衛星による環境調査

- ・地球観測衛星による各種画像（クロロフィル a、水温など）をHPで公開 [第五管区海上保安本部]

➤ 公共用水域における水質等の調査

- ・公共用水域における水質・底質等の調査を継続実施。[国、各自治体など]

➤ 大阪湾奥部の海水循環技術による環境改善

- ・大阪湾奥部における海水循環技術の確立のための実証実験を大阪府堺市で実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]

- 地域住民等と協働による河川水質調査
 - ・ごみの量、透視度、川底の感触、水の臭いによる新しい水質指標による調査を地域住民等と協働して実施。[近畿地方整備局]

- 事業実施箇所におけるモニタリング調査
 - ・堺浜自然再生ふれあいビーチにおいて水質調査（1回/月）、底質調査・底生生物調査（1回/年）及びダイバーによる目視調査等（4回/年）を実施。[堺市]
 - ・廃棄物最終処分場周辺海域（尼崎沖、泉大津沖、神戸沖、大阪沖処分場）において水質、底質、動植物のモニタリング調査を実施。[大阪湾広域臨海環境整備センター]
 - ・埋め戻しの課題・対策、対象となる窪地などを検討する窪地対策検討会を開催（予定）。[近畿地方整備局]

- 海洋汚染に係る調査・監視
 - ・主要港湾における海洋汚染調査、巡視船艇・航空機による海洋汚染の監視、取締りを実施。[第五管区海上保安本部]

- 公共用水域の水質・底質ダイオキシン類常時監視
 - ・公共用水域における水質及び底質のダイオキシン類の測定を実施。[大阪府、大阪市、堺市]

- ホームページ等による情報発信
 - ・各調査結果をホームページ等で公開。[国、各自治体など]
 - 例：大阪湾再生水質一斉調査 情報公開サイト
 (<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/water/index.aspx>)

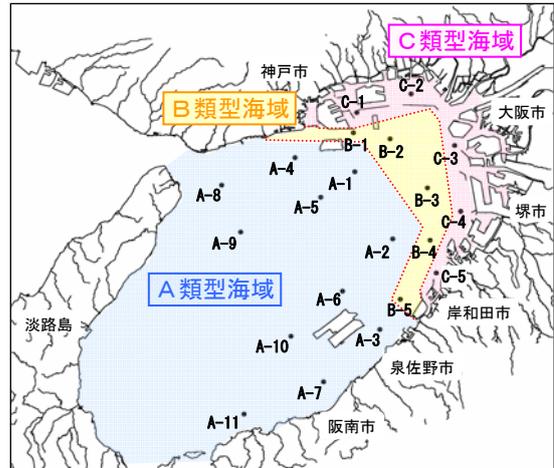


図 1-18 モニタリング実施状況

2) 評価結果

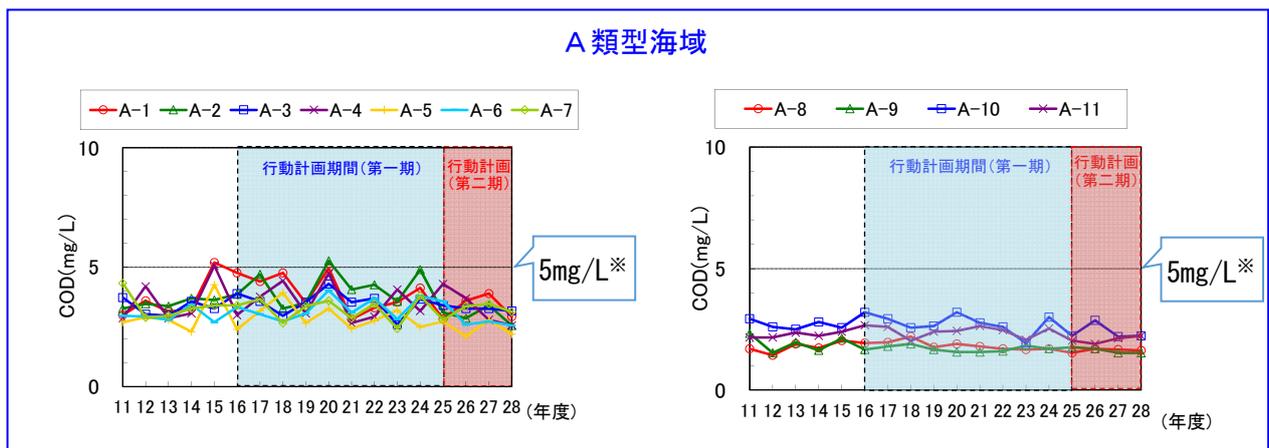
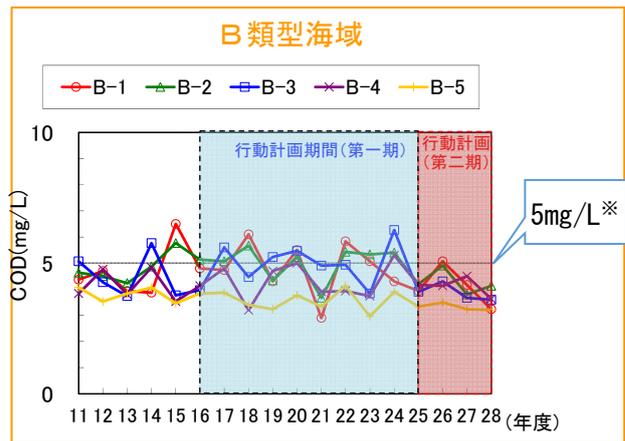
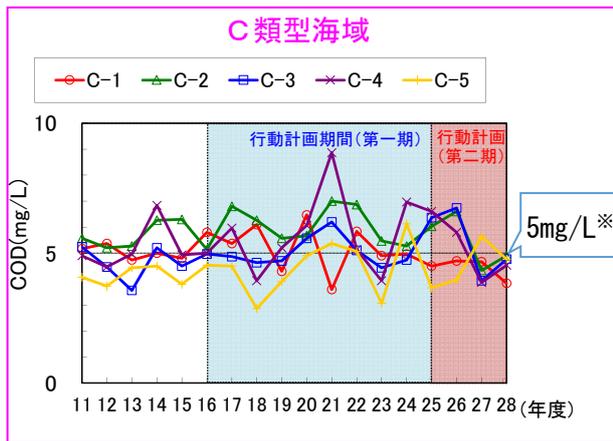
a. 表層 COD

- ・経年変化を見ると、年による変動があるものの、全体的にはほぼ横ばいで推移している。
- ・再生行動計面前と現在の水平分布図を比較すると、夏季では、依然として湾奥部の港湾区域周辺で 5mg/L を超える海域がみられるが、ポートアイランド周辺海域で 5 mg/L を下回る海域がやや拡大している。冬季では、明石海峡付近で 2mg/L 以下の海域が拡大している。



区分 利用目的の適応性
 A類型：マダイ・ブリ・ワカメ等の水産生物用、水浴、自然探勝等の環境保全
 B類型：ボラ・ノリ等の水産生物用、工業用水
 C類型：国民の生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を感じない限度

【海域別経年変化図 夏季（6～8月平均）】



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

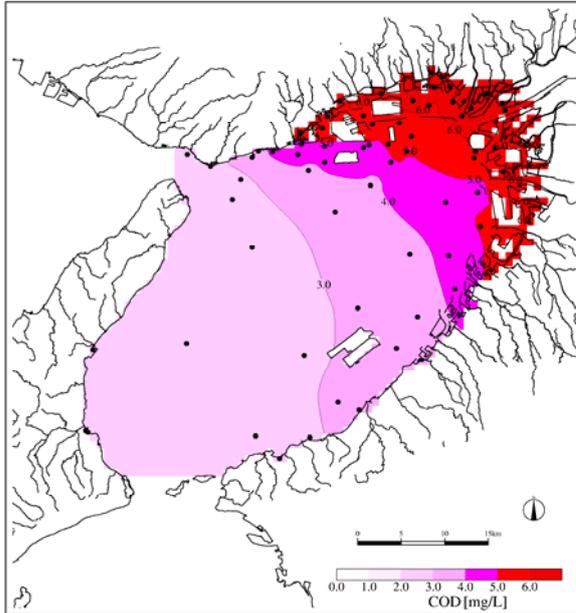
※評価指標値の目安：散策や展望に適した表層CODを 5 mg/L 以下として設定した

図 1-19 表層CODの経年変化 夏季（6～8月平均）

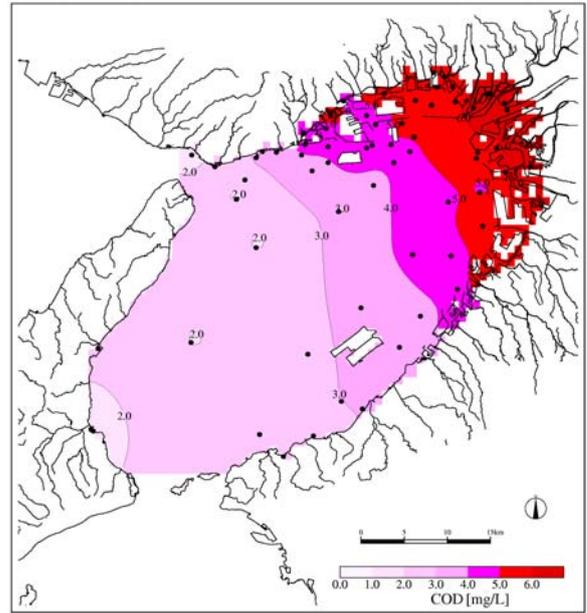
【水平分布図（表層COD）】

- ・ 夏季（6～8月）5年平均※

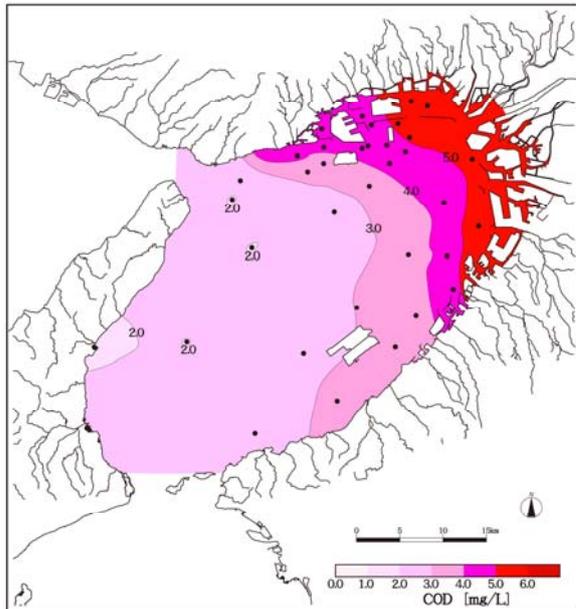
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜再生行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成24～28年度）＞



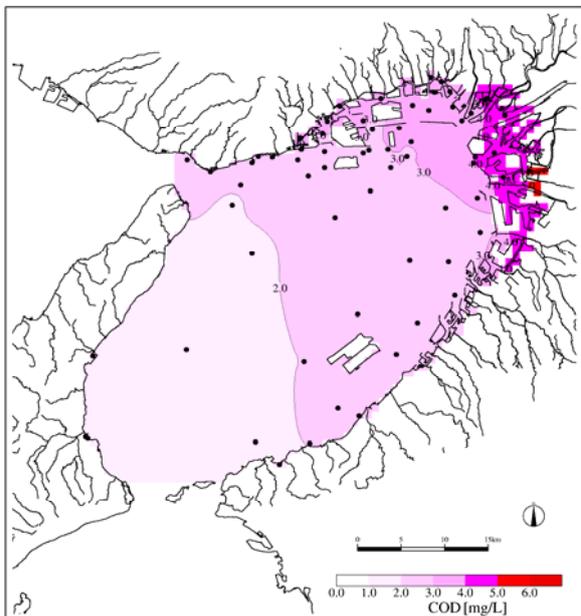
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

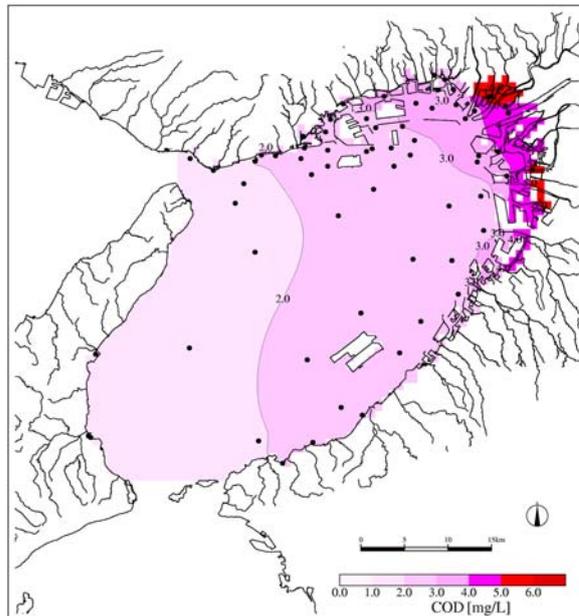
図 1-20 (1) 表層CODの水平分布（5年平均※）

・ 冬季（12～2月）5年平均*

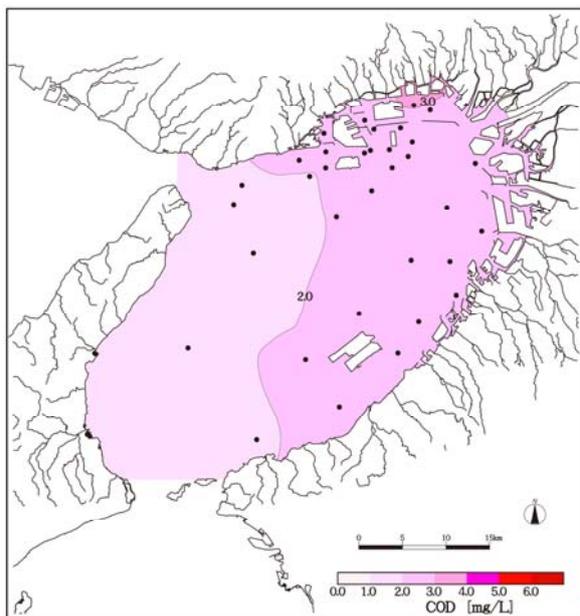
<再生行動計画前（平成11～15年度）>



<第二期行動計画前（平成21～25年度）>



<現在（平成24～28年度）>



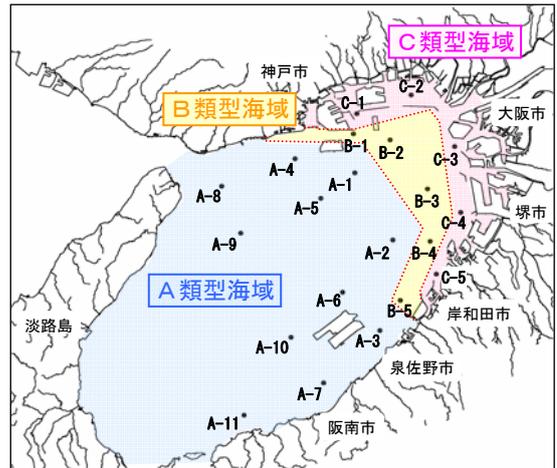
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

図1-21 (2) 表層CODの水平分布（5年平均*）

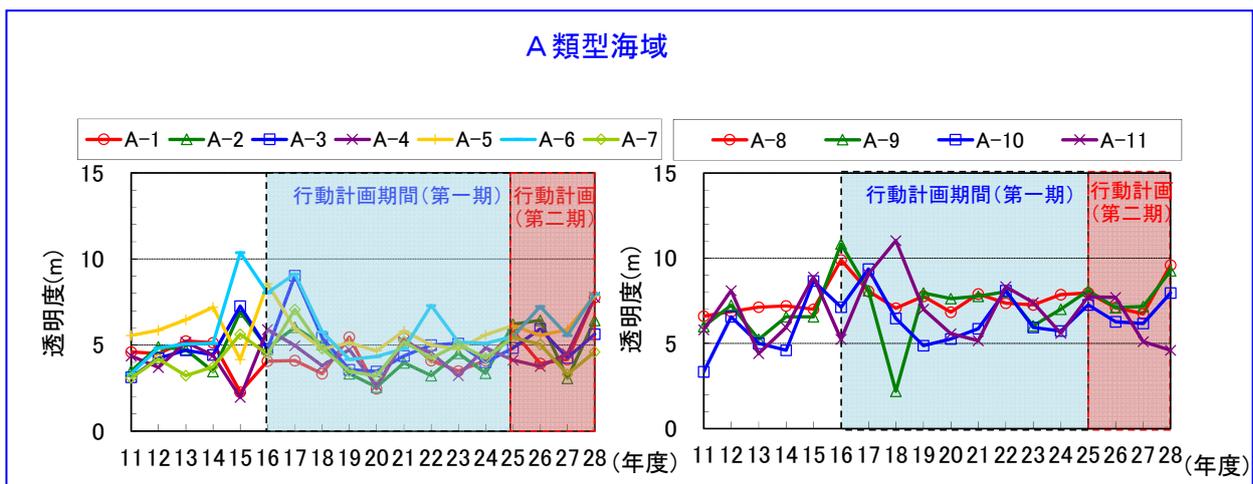
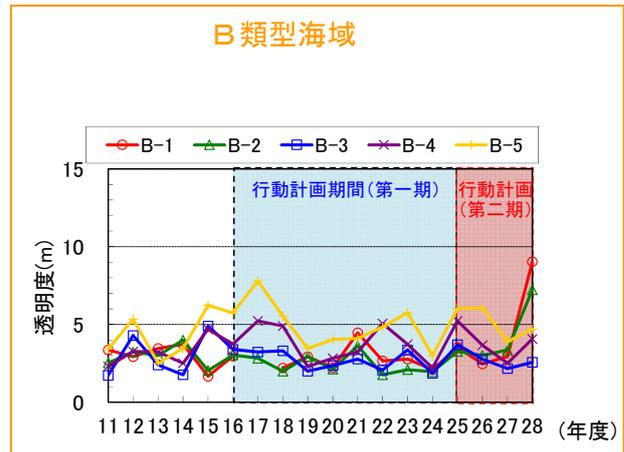
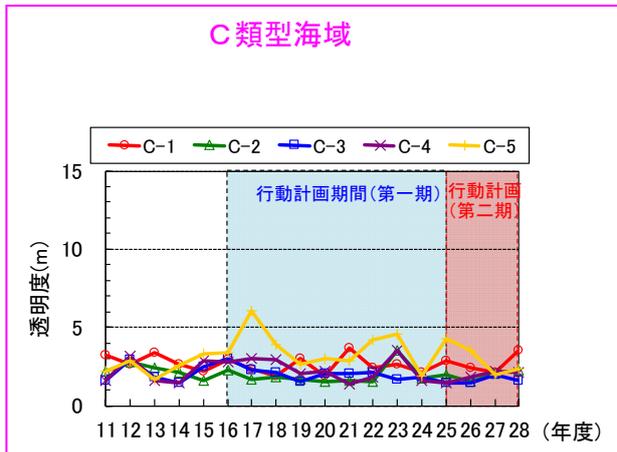
b. 透明度

- ・経年変化を見ると、年による変動がみられるものの、ほぼ横ばいで推移している。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図を比較すると、夏季では大きな変動はみられない。冬季では、湾中央～湾奥部付近で5m以上の海域が拡大している。



区分	利用目的の適応性
A類型	マダイ・ブリ・ワカメ等の水産生物用、水浴、自然探勝等の環境保全
B類型	ボラ・ノリ等の水産生物用、工業用水
C類型	国民の生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を感じない限度

【経年変化図 夏季（6～8月平均）】



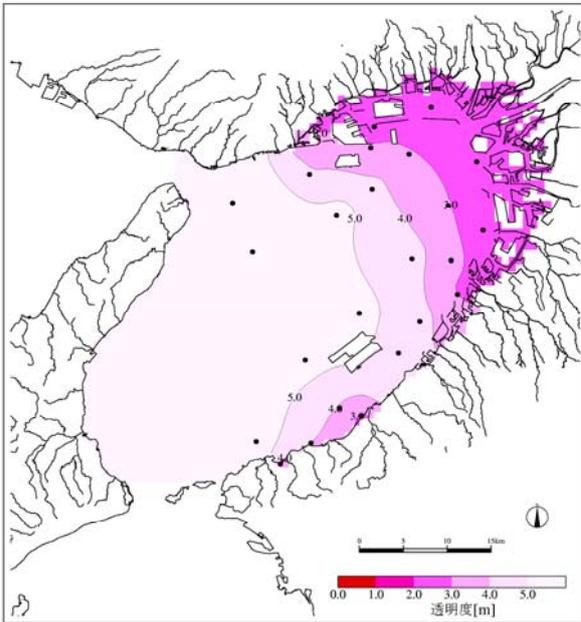
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

図 1-22 透明度の経年変化 夏季（6～8月平均）

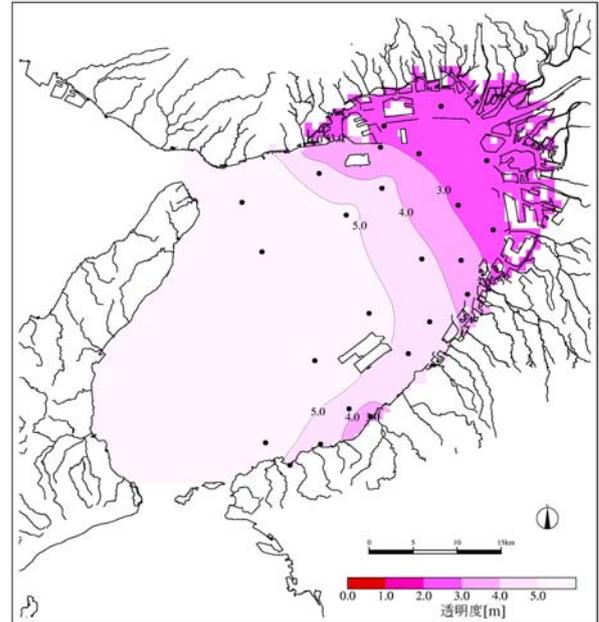
【水平分布図（透明度）】

- ・ 夏季（6～8月）5年平均※

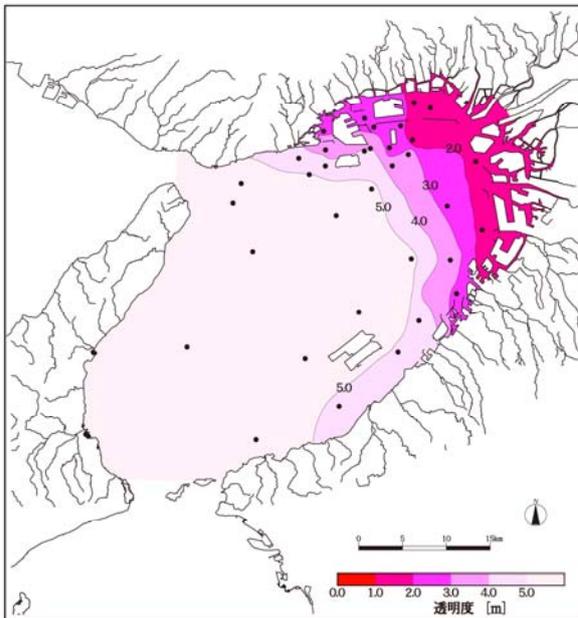
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成24～28年度）＞



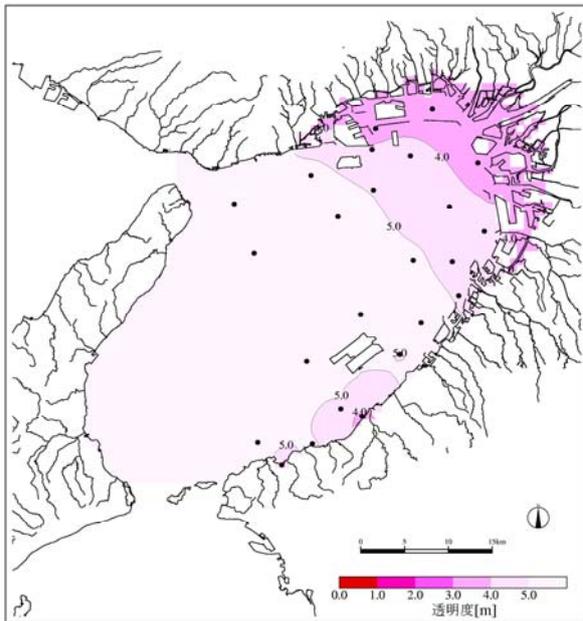
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

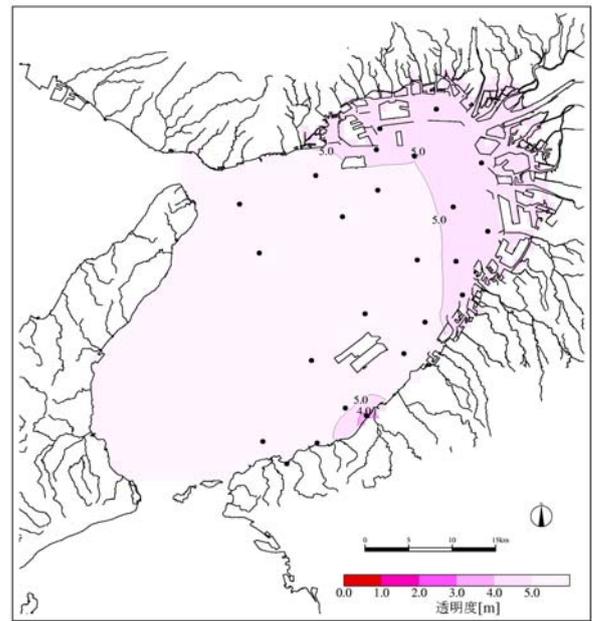
図 1-23 (1) 透明度の水平分布（5年平均※）

・ 冬季（12～2月）5年平均*

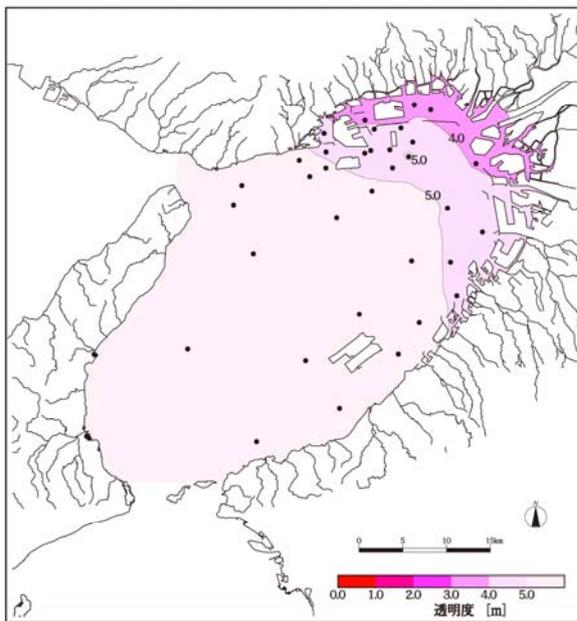
<再生行動計画前（平成11～15年度）>



<第二期行動計画前（平成21～25年度）>



<現在（平成24～28年度）>



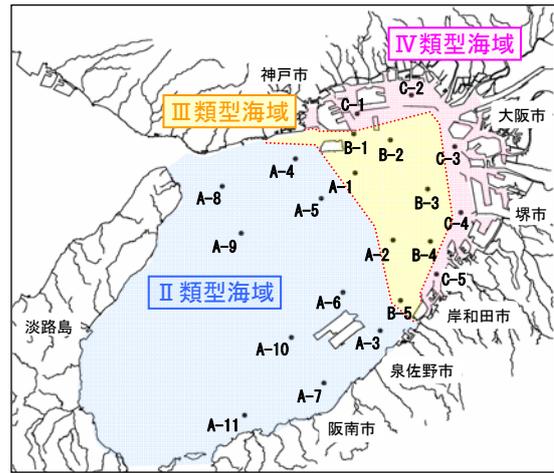
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

図1-24 (2) 透明度の水平分布（5年平均*）

c. T-N (全窒素)、T-P (全リン)

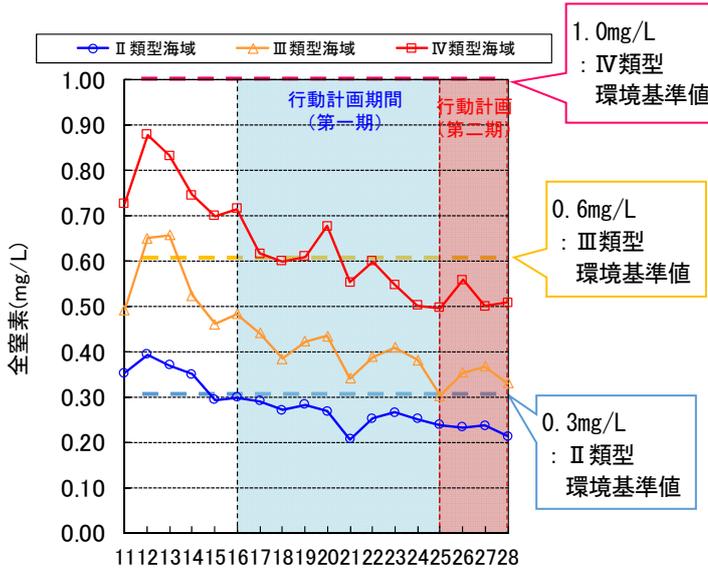
- ・全窒素、全リンの経年変化を見ると、II、III、IV類型海域で概ね減少傾向がみられる。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図を比較すると、夏季では湾中央～湾奥部付近で減少傾向がみられる。



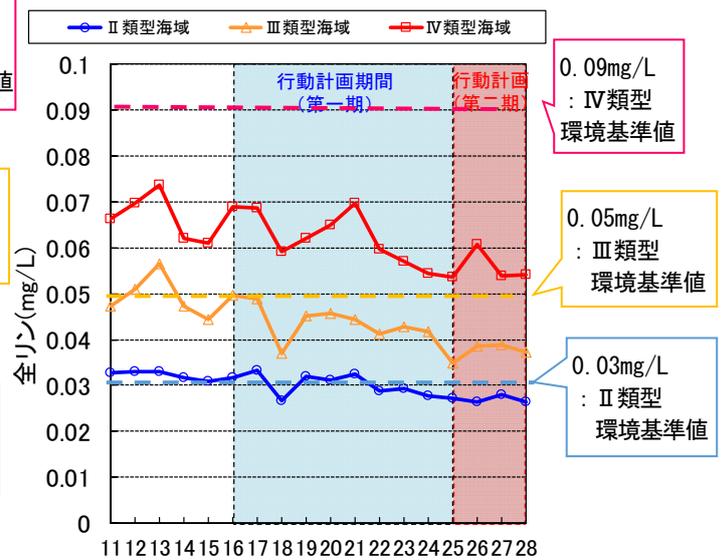
区分	利用目的の適応性
II類型	底生魚介類を含め多様な水産生物がバランスよく、かつ、安定して漁獲される。水浴。
III類型	一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される。
IV類型	汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される。工業用水。年間を通して底生生物が生息できる限度

【経年変化図 年平均】

・ T-N (全窒素)



・ T-P (全リン)

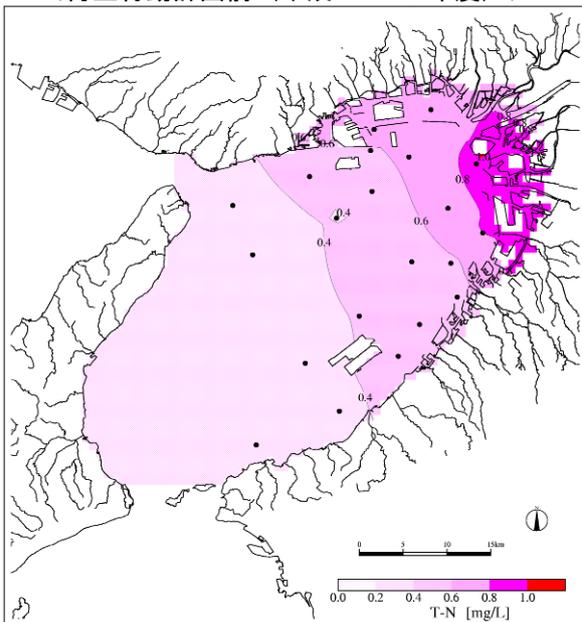


資料) 公共用水域水質測定結果より作成

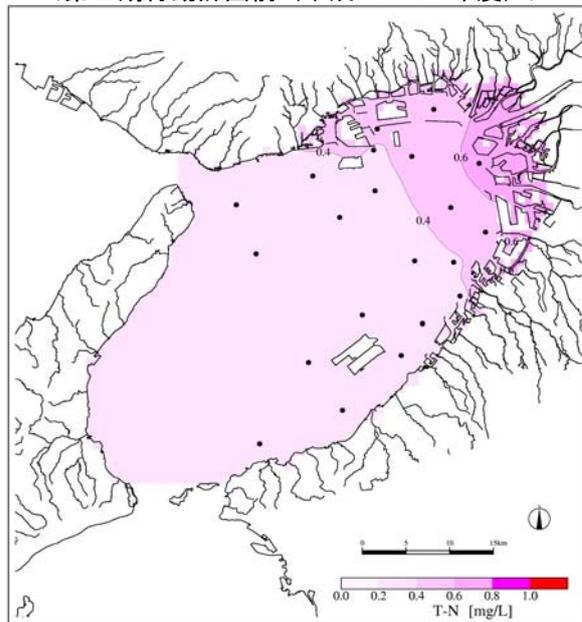
図 1-25 全窒素、全リンの経年変化 (年平均)

・ 【水平分布図（全窒素・年間値5年平均※）】

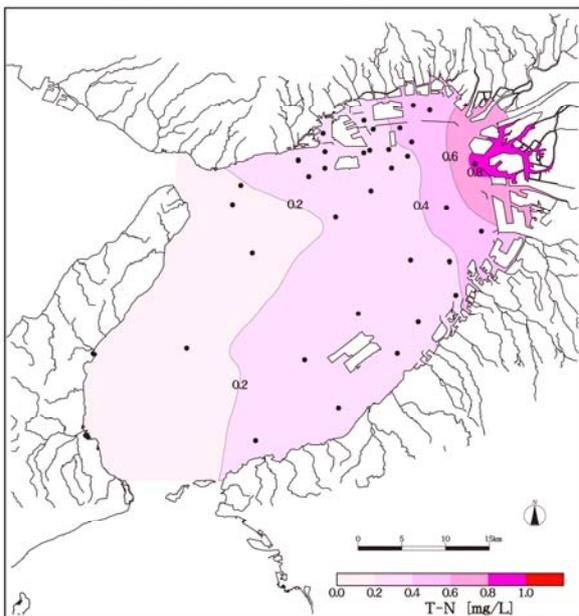
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成24～28年度）＞



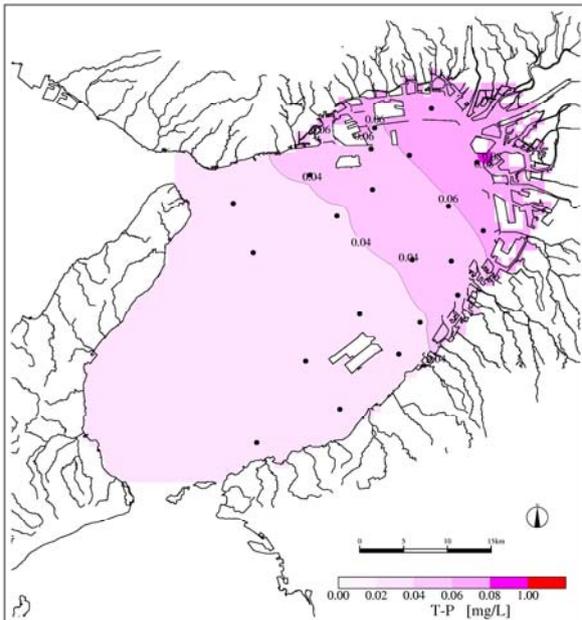
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

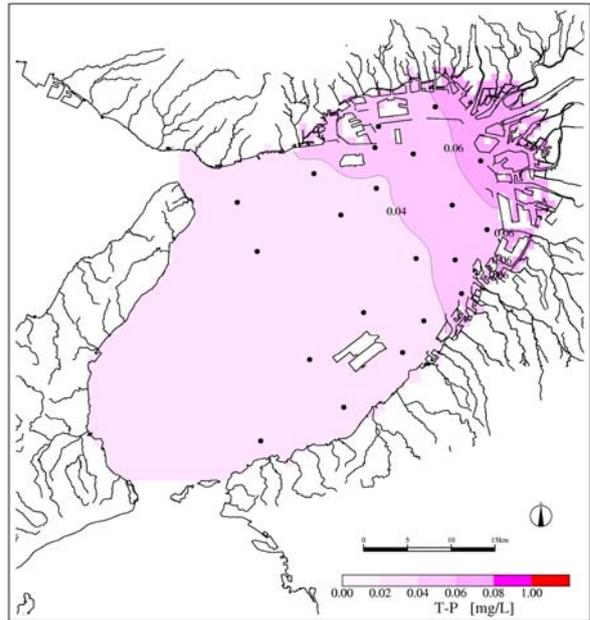
図 1-26 全窒素の水平分布（年間値の5年平均※）

【水平分布図（全リン・年間値 5 年平均※）】

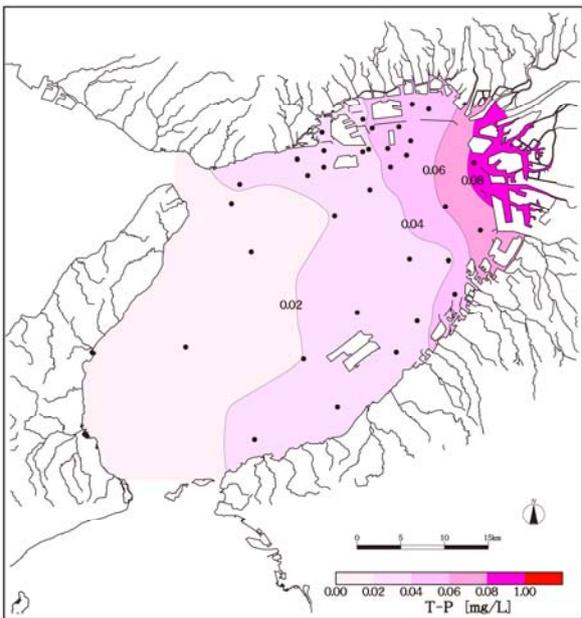
＜再生行動計画前（平成 11～15 年度）＞



＜第二期行動計画前（平成 21～25 年度）＞



＜現在（平成 24～28 年度）＞



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

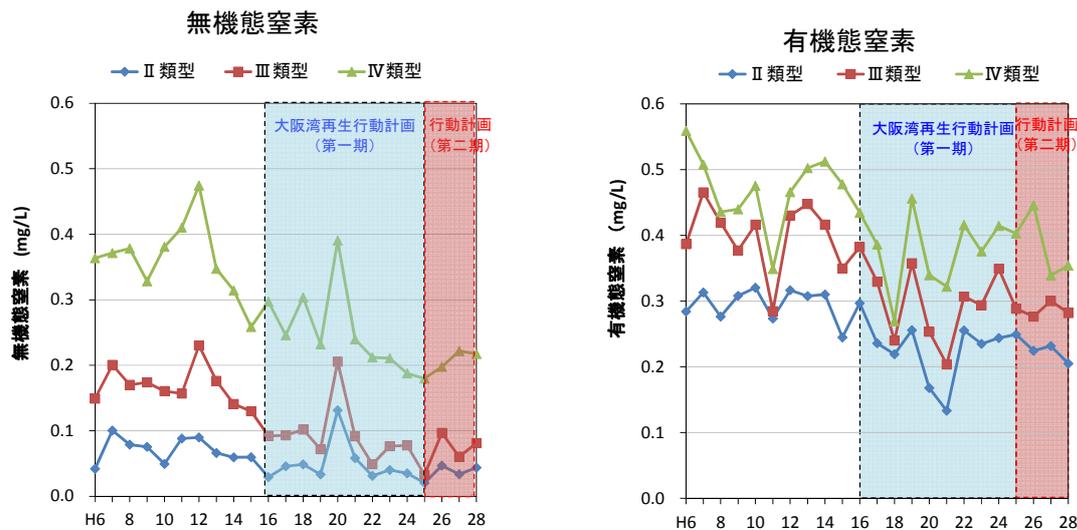
※水質データは年変動が大きいことから 5 年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

図 1-27 全リンの水平分布（年間値の 5 年平均※）

d. 形態別窒素・リン

- ・形態別窒素（有機態・無機態）の大阪湾における経年変化を図 1-28 に示す。年による変動がみられるものの、特に流入負荷量の多い湾奥部（IV類型海域）で無機態窒素は減少傾向にあったが、最近4年間は横ばい傾向にある。
- ・無機態リンであるリン酸態リンの大阪湾における経年変化を図 1-29 に示す。窒素と概ね同様の傾向であり、平成 12 年頃から減少傾向がみられていたが、第二期期間では平成 25 年度が最低、平成 28 年度が最も高い。

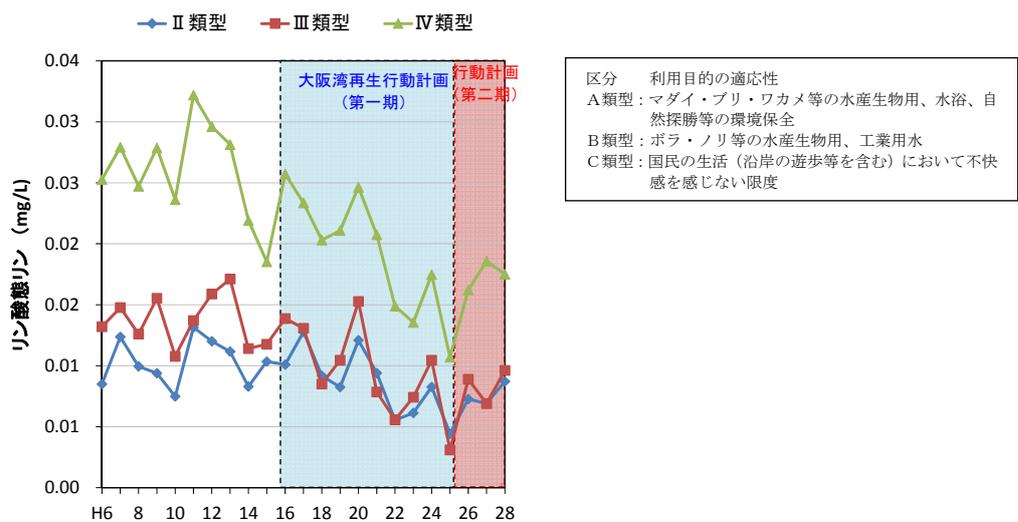
【経年変化図（形態別窒素）】



資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成

図 1-28 形態別窒素の経年変化（表層、年平均値）

【経年変化図（リン酸態リン）】



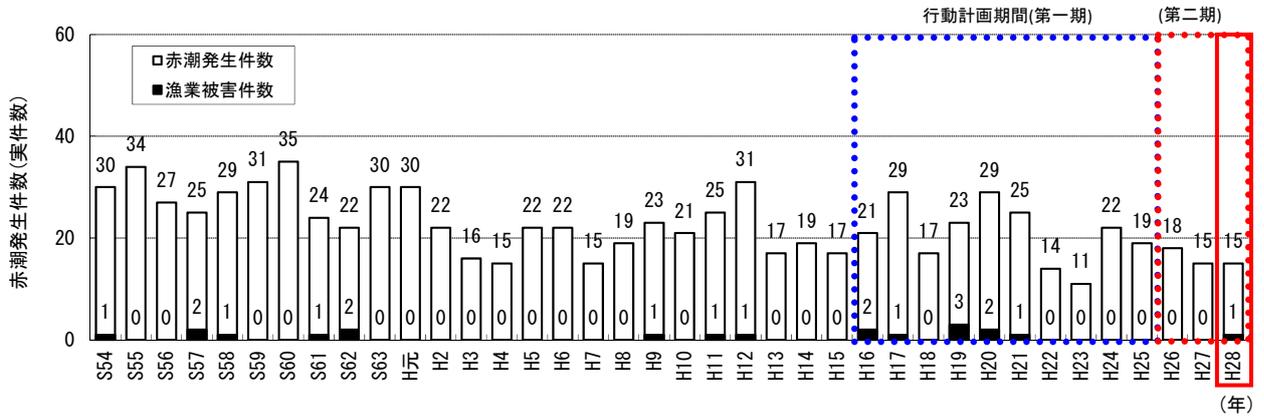
資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成

図 1-29 リン酸態リンの経年変化（表層、年平均値）

e. 赤潮の発生状況

- ・ 行動計画期間（平成 16 年～28 年）中の大阪湾における赤潮発生件数は 11～29 件の範囲、第二期行動計画策定（平成 26 年度）以降は 20 件以下で推移しており、年によって変動がみられる。H28 年では赤潮が 15 件発生し、漁業被害が 1 件報告された。

【経年変化（大阪湾における赤潮の発生状況）】



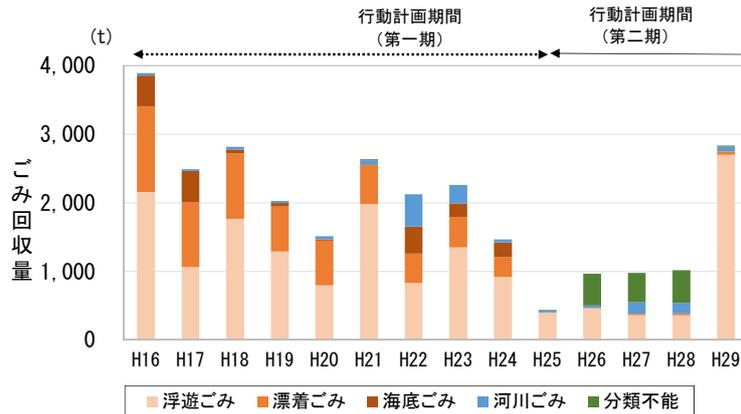
資料) 瀬戸内海の赤潮より作成

図 1-30 赤潮の発生件数及び漁業被害件数

g. ごみ回収量・回収活動参加者数

- ・大阪湾及び大阪湾集水域の河川において平成 29 年度に実施したごみ回収活動によるごみ回収量は 2833.8 t (見込み)、ごみ回収活動参加者数は 59,541 人(見込み)であった。浮遊ゴミ回収量について平成 28 年度に比べて大きく増えた要因として、台風が数多く来襲した影響が起因している。
- ・H29 年度は阪南 2 区、二色の浜海岸、福島海岸で美化活動が雨天中止となった。

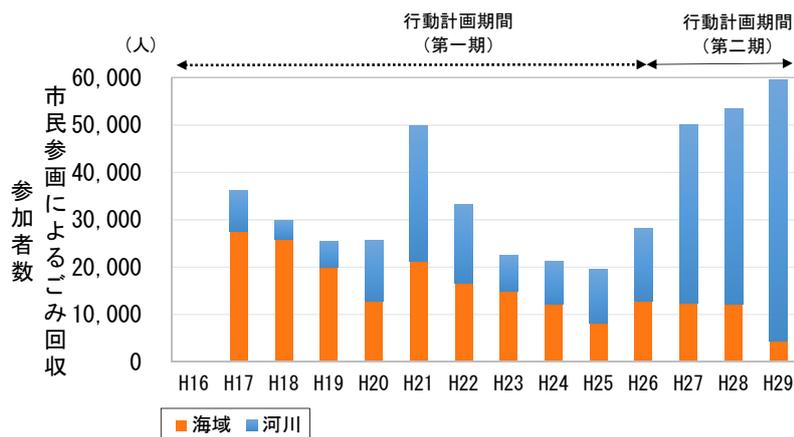
【経年変化（ごみ回収量）】



※平成 26 年度より、地元市町・市民・企業との協働美化活動、府民・ボランティアによる海岸美化運動、成ヶ島クリーン作戦、アドプト・シーサイド・プログラム、海岸美化活動（堺浜自然再生ふれあいビーチ）、海域ごみ清掃事業、大和川・石川クリーン作戦、内水面振興対策推進事業、大和川一斉清掃事業について新たに集計対象とした。
 河川愛護月間等イベントを通じた河川清掃活動についてはすべての実施場所を集計対象とした。
 ※平成 27 年度より大和川リレー美化活動について新たに集計対象とした。

図 1-31 ごみ回収量

【経年変化（回収活動参加者数）】



※平成 26 年度より、地元市町・市民・企業との協働美化活動、府民・ボランティアによる海岸美化運動、成ヶ島クリーン作戦、アドプト・シーサイド・プログラム、海岸美化活動（堺浜自然再生ふれあいビーチ）、大和川・石川クリーン作戦、内水面振興対策推進事業、大和川一斉清掃事業について新たに集計対象とした。
 河川愛護月間等イベントを通じた河川清掃活動についてはすべての実施場所を集計対象とした。
 ※平成 27 年度より大和川リレー美化活動について新たに集計対象とした。

図 1-32 ごみ回収活動参加者数

(2) 親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」

<取り組みの状況>

● 砂浜、親水護岸等の整備

堺旧港において親水護岸の整備が進められており、進捗率も 95%に達している（平成 30 年度完了予定）

● 親水緑地等の整備

基幹的広域防災拠点において、緑地に続く臨港道路を整備/堺第 7-3 区「共生の森」において森づくり活動を実施/漁業者・ボランティア等による下草刈りを実施

● イベントの開催

「堺の海・再発見」、「尼海への恩返し」など、親水空間を活用した環境学習イベントを開催

● 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援

「マザーレイクフォーラムびわコミ会議」等のフォーラム・環境学習会を実施/小学校への出前授業等を実施/「大和川清流復活ネットワーク」等の市町村や民間団体との情報共有を実施/市民によるアコヤ貝育成を通じた水質保全活動を実施/堺浜において水質浄化設備の効果検証とタイドプールの水質及び生物相の調査を継続実施

<評価結果>

● 砂浜、親水護岸等の整備面積、整備延長については、堺旧港で新たに 0.1 kmの親水護岸整備を実施し、累積で 4.59 kmの親水護岸を整備完了、府営せんなん里海公園で累積 7.8ha の人工磯浜を開設し、累計で 39.9ha の親水緑地を整備完了。また堺第 7-3 区共生の森づくりで新たに 0.8ha の緑地整備を実施し、累積で 76ha の親水緑地を整備完了。

● 海水浴場や親水公園等で訪問者数が増加するとともに、出前講座等の環境学習や海づくり大会等の親水イベント、森林整備・清掃活動等の多彩なイベントを開催し、多くの参加があった。

<取り組みの成果>

● 親水施設の整備が進捗するとともに、親水施設等で開催した多彩なイベントに多数の参加を得るなど、一定の成果を得た。

● 今後とも、魅力的な親水施設の整備、多彩なイベントの実施、及び市民・企業等の取り組みへの参画促進・取り組み支援の推進が望まれる。

1) 取り組みの状況

a. 砂浜、親水護岸等の整備

➤ 親水護岸、人工海浜等の整備

- ・堺旧港において親水護岸の整備が進められており、進捗率も 91%から 95%に増加。

[大阪府]

- ・府営せんなん里海公園においてさとうみ磯浜の整備を実施。[大阪府]



図 1-33 整備実施場所



写真提供：大阪府

図 1-34 整備した親水護岸（さとうみ磯浜）



写真提供：大阪府

図 1-35 堺旧浜（親水護岸）

b. 親水緑地等の整備

- 臨海部における親水緑地の整備
 - ・自然環境の回復創造により、環境共生型のまちづくりを目指す「尼崎 21 世紀の森」の推進。[兵庫県]
- NPO・企業の参加による臨海部での森づくり
 - ・堺第 7-3 区「共生の森」において、0.8ha に植樹を実施。[大阪府]
- 漁業者、市民等による森林整備
 - ・岸和田市において、漁業者、ボランティア等による下草刈りを実施。[大阪府漁連]
- 府営公園の整備及び管理
 - ・府営公園の整備及び管理を継続実施（府営浜寺公園、府営二色の浜公園、府営りんくう公園、府営せんなん里海公園）。[大阪府]
- 魚釣り場の開放
 - ・緑地の一部を魚釣り場として開放（舞洲：230m、咲洲海浜緑地：215m、鶴浜緑地：50m）。[大阪市]

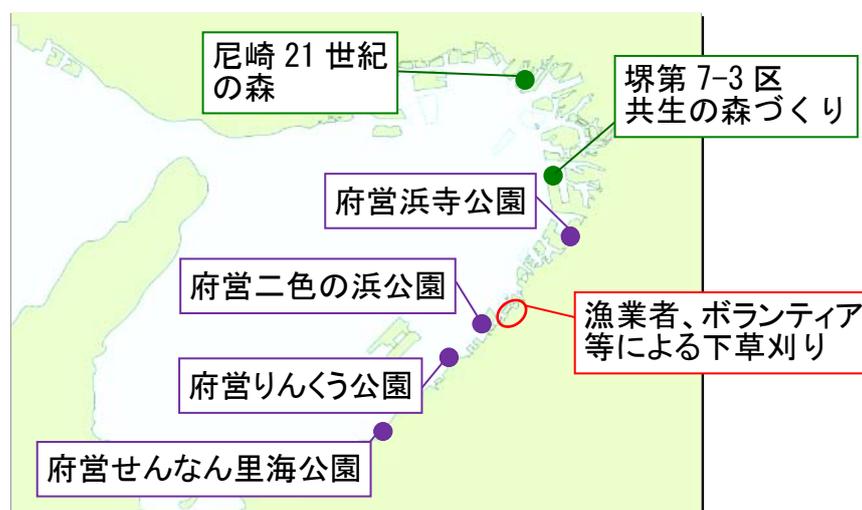


図 1-36 親水緑地等の整備実施場所

c. イベントの開催

▶ 親水空間等の活用、環境学習等のイベントの開催

- ・堺エコロジー大学一般講座・自然体験学習「堺の海・再発見」で漁業操業の見学や生き物の観察等の自然体験学習に 21 名が参加。[堺市]
- ・堺浜ふれあいビーチイベントで、稚魚（クロダイ）の放流や砂浜の清掃、堺ブレイザーズ選手（バレーボール）、セレッソ大阪堺レディース（サッカー）との交流会を実施。[堺市]
- ・小学校・幼稚園等を訪問し環境紙芝居、水質実験等による環境保全学習を実施。[第五管区海上保安本部]
- ・地域の小学生を対象とした港湾施設見学会を 15 回実施し、約 531 名が参加。[大阪府]
- ・楽しみながら大阪湾の環境保全への理解を深めるエコツーリズムの推進の一環として、大阪湾うみ・まちウォーク in 岸和田を H29 年度から新規実施。[大阪府]
- ・大阪湾フォーラムを継続実施（200 名程度が参加予定）。[大阪湾見守りネット]
- ・尼崎港内でのワカメ育成・刈り取り、堆肥化、菜の花畑作りによる環境循環の参加型活動を学校・企業・NPO・市民・行政等が連携して実施。[尼海への恩返し（尼海の会）、大阪湾広域臨海環境センター]
- ・尼崎運河において「尼崎運河博覧会」を開催し、市民約 1,500 人が参加。[尼崎運河博覧会実行委員会]
- ・尼崎港において海外研修生や高校生等を対象とした環境学習を実施。[（公財）国際エメックスセンター]
- ・堺第 7-3 区「共生の森」において NPO や企業等の参加と連携による実験的取り組みを実施し、「共生の森づくり」植樹祭等には府民等約 1,300 人が参加。[大阪府]
- ・淡輪小学校において 4 年生の生徒を対象に、生物や海岸について講演並びに生物観察・稚魚の放流を実施。[大阪府、岬町教育委員会、（公財）大阪府漁業振興基金など]



図 1-37 主なイベントの開催場所



写真提供：大阪府

図 1-38 堺第 7-3 区共生の森づくり

d. 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援

- ▶ NPO・企業等の参加による臨海部での森づくり
 - ・堺第7-3区共生の森づくり活動支援事業において「企業による森づくり連絡調整会（企業による森づくり促進のため、企業が参画しやすい環境づくり、他の参加団体と森づくりの調整や情報交換を実施）」を開催。[大阪府]

- ▶ 環境学習会等の開催、情報発信
 - ・県民との協働により「マザーレイクフォーラム びわコミ会議」等のフォーラムを実施。みんなの情報交流サイト「マザーレイクフォーラム」及びフェイスブックを活用して、個人・団体間の情報交流を促進。[マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県]
 - ・「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」において、清掃活動、真珠貝環境学習、アサリの育成実験、稚魚の放流など市民と協働して事業を展開。[兵庫漁協、兵庫運河・真珠貝プロジェクト]
 - ・堺市では「川と水環境」、神戸市では下水処理の仕組み等に関する出前授業を継続実施。[堺市、神戸市]

- ▶ 住民・NPO、企業等参加による河川環境改善
 - ・「大和川清流復活ネットワーク」において、市町村や民間団体との情報共有を継続実施。[奈良県]

- ▶ 多様な主体との連携による水質改善
 - ・大学等との連携による尼崎運河の水環境改善に係る実験・環境学習会を継続実施。[徳島大学、兵庫県、尼崎市]
 - ・民間団体との連携により、堺浜において水質浄化設備の効果検証とタイドプールの水質及び生物相の調査を継続実施。[堺市]
 - ・地域の多様な主体による瀬戸内海沿岸域の良好な環境の再生等の取組を推進するため、地域団体等が行う藻場・干潟等の再生・創出活動の支援事業を実施。[兵庫県]



図 1-39 市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援実施場所 35



写真提供：堺市

図 1-40 浄化材を用いたタイドプール

2) 評価結果

a. 砂浜、親水護岸の整備延長及び、親水緑地等の整備面積

- ・砂浜の累積整備延長は 0.2km、累積整備面積は 7.8ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・親水護岸は平成 29 年度に 0.1km の整備が完了（見込み）であり、累積整備延長は 4.59km（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・親水緑地は平成 29 年度に 0.8ha の整備が完了（見込み）であり、累積整備面積は 76ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・第二期行動計画策定以降も整備が継続している。

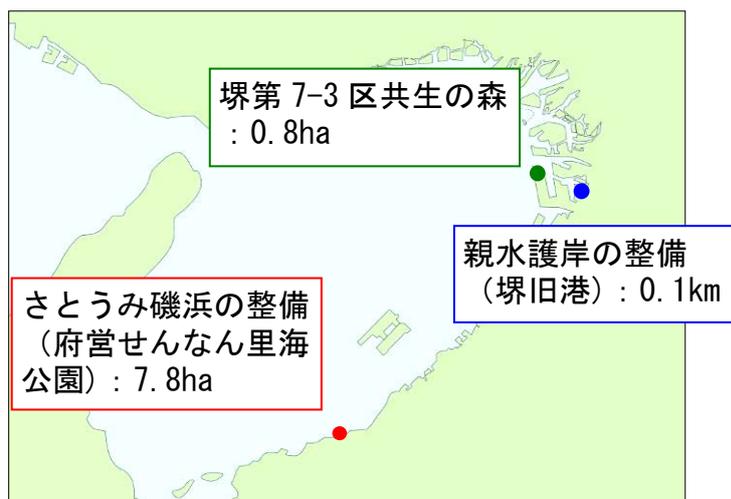


図 1-41 平成 29 年度の整備実施場所

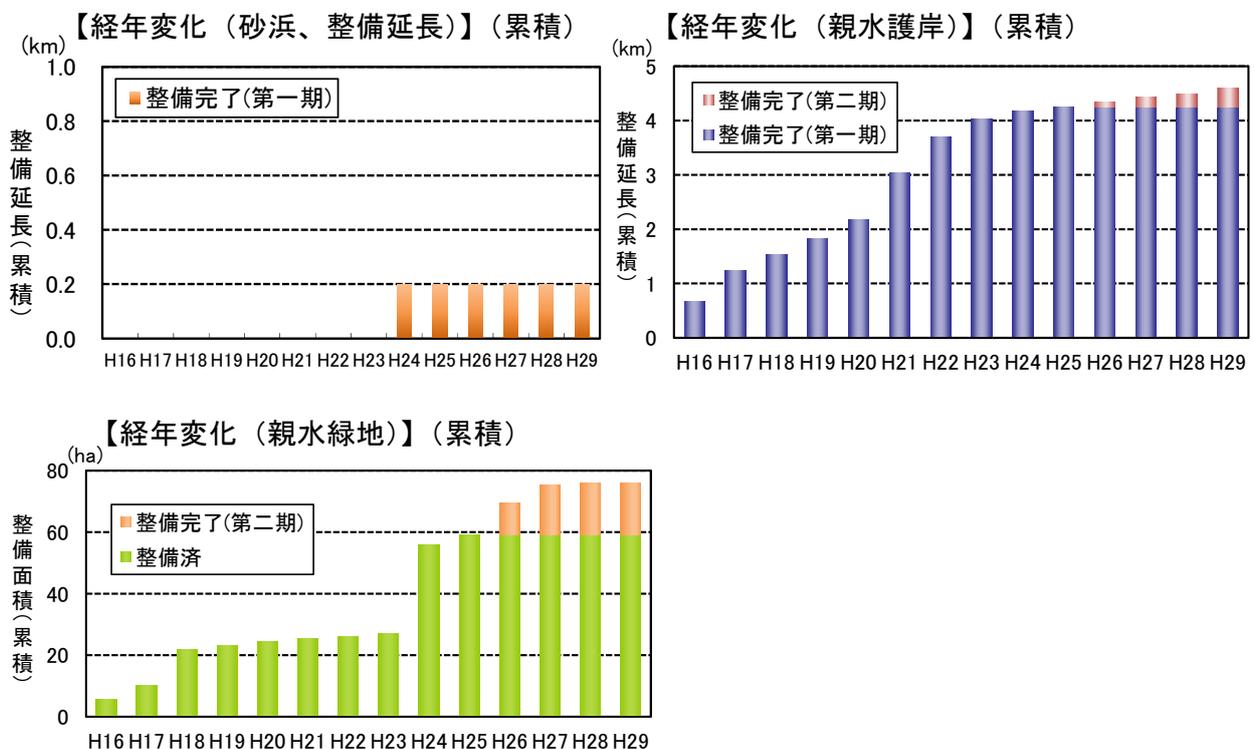


図 1-42 砂浜、親水護岸及び親水緑地の整備状況の経年変化

b. 親水施設への訪問者数

- ・親水施設訪問者数は、須磨海水浴場が 730,000 人、尼ロック（尼崎閘門）が約 1,500 人（見込み）、尼崎市立魚釣り公園が 47,674 人、浜寺公園が 2,058,000 人、せんなん里海公園が 460,000 人等であった。

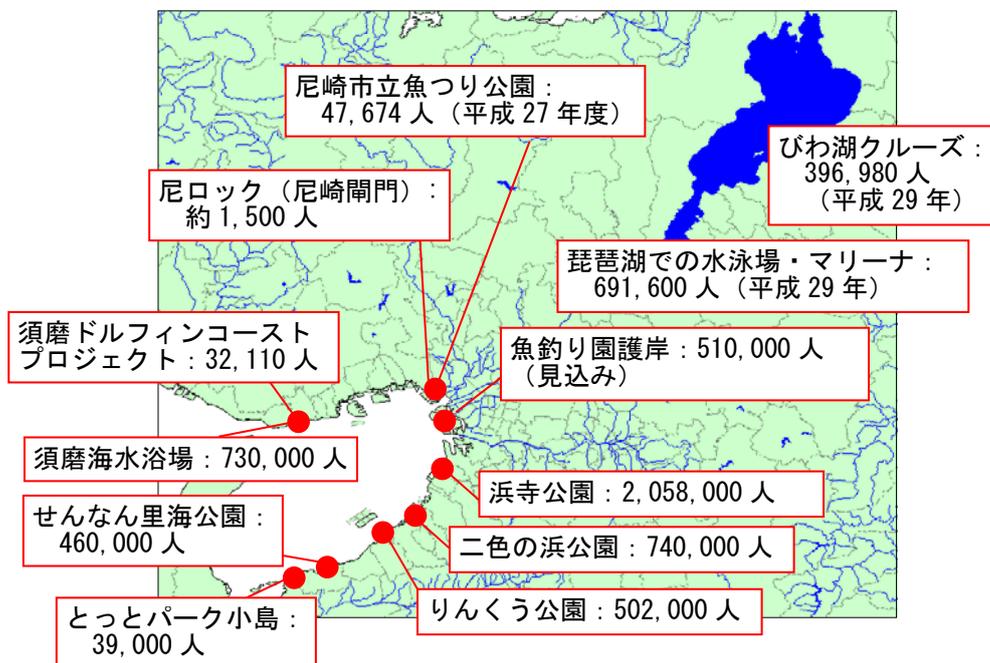


図 1-43 平成 29 年度の親水施設への主な訪問者数

c. イベントの開催状況

- ・尼崎運河における小中高生などを対象とした環境学習会では昨年度に続いて 7 回学習会を開催し、参加者は約 800 人（見込み）であった。[兵庫県、尼崎市]
- ・海洋環境保全推進月間（6 月）のイベントは、毎年 30 回以上実施し、今年度は 33 回で 1,194 人の参加があった。[海上保安庁]
- ・堺浜自然再生ふれあいビーチでのイベント「堺浜ふれあいビーチで遊ぼう！」では、参加者が 80 人であった。[堺市]
- ・兵庫運河祭では、昨年度より多い約 1 万 5 千人の参加者があった。[兵庫運河祭実行委員会]
- ・堺第 7-3 区共生の森事業では、5 回イベントを開催し、参加者は 831 人（見込み）であった（阪南 1 区、二色の浜海岸の 2 ヶ所は雨天中止）。[大阪府]
- ・流域社会一体となった流域連携運動に発展させるための環境醸成（水生生物調査）では 31 回（見込み）開催し、参加者が 1,400 人（見込み）であった。[近畿地方整備局]

(3) 豊かな「魚庭（なにわ）の海」

<取り組みの状況>

●藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備

国指定浜甲子園鳥獣保護区保全事業における干潟の保全・再生事業、緩傾斜護岸等の整備（新島）、関西国際空港島周辺におけるサワラ等の種苗の放流、天然アサリの種苗採取や育成実験・アマモの移植実験（兵庫運河）などを実施

●窪地の埋め戻し

阪南2区沖窪地で堺泉北港助松航路などの浚渫土砂の投入による環境改善事業を実施

●漁場整備

岸和田市及び泉佐野市地先に攪拌ブロック礁を設置

●モニタリングの充実

大阪湾生き物一斉調査、漁場環境、藻場・干潟の分布状況等の調査、水生生物調査等のモニタリング、漁場環境情報システムでの情報提供、瀬戸内海の赤潮発生情報の公表・発信等を実施

●その他

海底耕耘、ため池の池干し・栄養塩管理運転、稚魚の種苗生産・放流（大阪市～岬町、神戸市～洲本市）等を実施

<評価結果>

●底層DOについては、湾奥部において、夏季では依然として5mg/L未満の海域がみられ、貧酸素状態となっている海域がみられる。

●底生生物の生息状況については、湾央から湾口では種類数が増加傾向、個体数については横ばいまたは増加傾向がみられる。

●海岸生物については、大阪湾生き物一斉調査により、801種（水生生物群483種、陸生生物群318種）が確認され、貴重種は96種が確認された。平成29年度の調査テーマである「アサリとヒメアサリ」については、全25調査地点中内湾性のアサリは16地点と広範囲で確認されたが、外洋性のヒメアサリは神戸市西部の1地点でのみ確認され、今回の調査ではアサリが優占する結果となった。

<取り組みの成果>

●湾奥部では、依然として貧酸素状態がみられ、底生生物の種類数も少ないため、今後のさらなる取り組み推進が必要である。

●湾口部・湾央部では、底生生物の種類数及び個体数についても改善傾向がみられるものの、さらなる取り組み推進が望ましい。

1) 取り組みの状況

a. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備

- 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備及び調査等
 - ・新島（大阪港）において緩傾斜護岸の整備を継続実施。[近畿地方整備局]
 - ・関西国際空港島周辺海域の採捕禁止区域で、サワラ等の種苗の放流を実施。[大阪府]
 - ・兵庫運河において漁協・地元・NPO・行政が連携・協働し、天然アサリの種苗採取や育成実験、アマモの移植実験、竹・柴漁礁の実験設置等を実施。[神戸市、兵庫運河を美しくする会、兵庫漁業協同組合など]

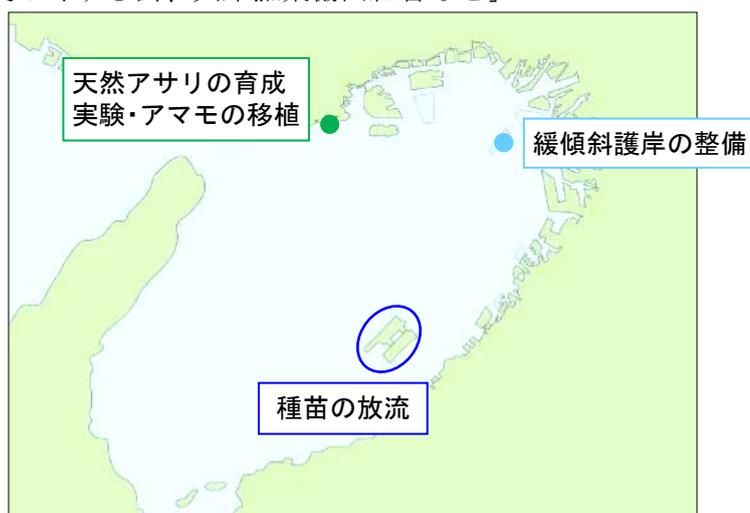
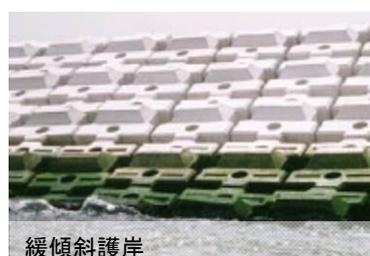


図 1-42 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備実施場所



緩傾斜護岸



粗朶沈床設置



粗朶沈床実験でコウイカ産卵



水深3mに繁茂する海藻

写真提供：近畿地方整備局



運河の観察会

写真提供：神戸市



アサリの育成実験

図 1-44 新島の緩傾斜護岸

図 1-45 運河水面の新たな活用（兵庫運河）

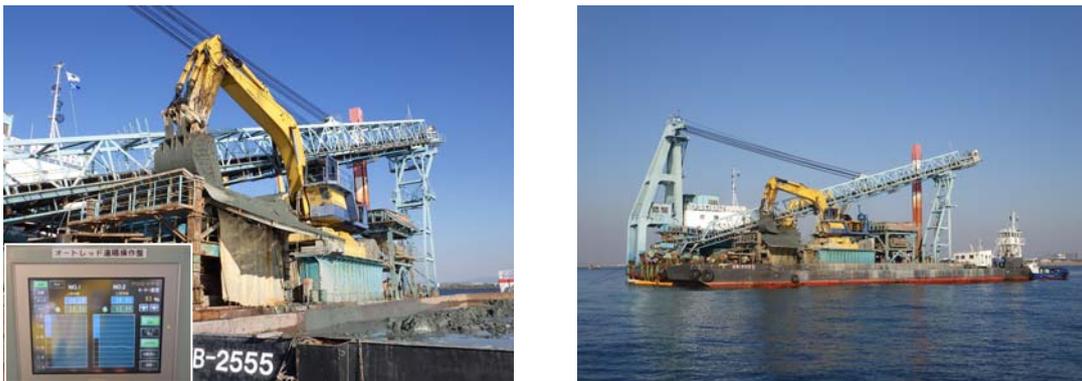
b. 窪地の埋め戻し

➤ 海底浚渫窪地における環境改善

- ・ 阪南 2 区沖窪地に堺泉北港助松航路の浚渫土を投入予定。[近畿地方整備局]

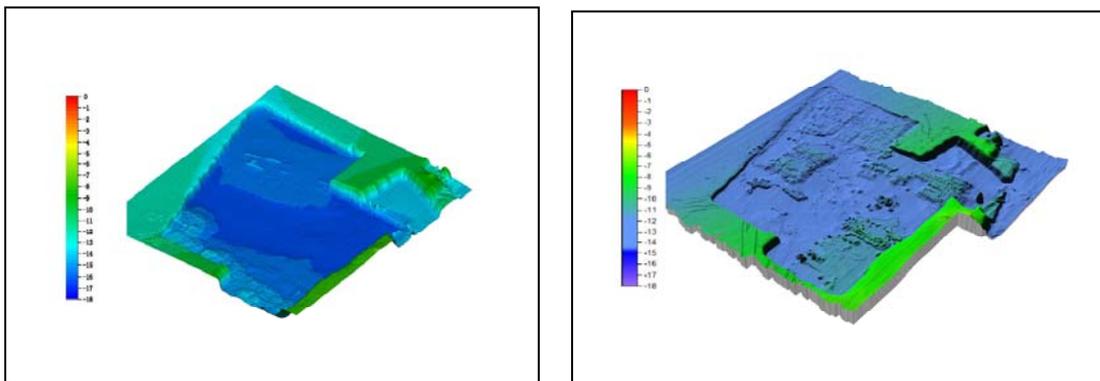


図 1-45 窪地の埋め戻し実施場所



写真提供：近畿地方整備局

図 1-46 窪地の埋め戻しの状況（阪南 2 区沖窪地）



写真提供：港湾空港部

図 1-47 H23 年度と H29 年度の窪地の埋め立ての状況（阪南 2 区沖窪地）

c. 漁場整備

➤ 増殖場等の整備

- ・岸和田市及び泉佐野市地先において、攪拌ブロック礁を設置し、2.1ha 整備が完了。[大阪府]



図 1-48 漁場整備実施場所



写真提供：大阪府

図 1-49 設置された攪拌ブロック礁（岸和田市地先）

d. モニタリングの充実

➤ 大阪湾生き物一斉調査

- ・大阪湾生き物一斉調査を、25 地点で 1,098 人が参加して実施。[大阪湾環境再生連絡会]

表 1-2 大阪湾生き物一斉調査の実施状況

	行動計画期間（第一期）					行動計画期間（第二期）				
	第1回 (H20)	第2回 (H21)	第3回 (H22)	第4回 (H23)	第5回 (H24)	第6回 (H25)	第7回 (H26)	第8回 (H27)	第9回 (H28)	第10回 (H29)
地点数	15	15	17	18	21	23	22	24	26	25
団体数	11	14	16	18	20	22	20	24	26	28
参加人数	467	666	792	931	1,328	1,375	1,244	1,277	1,080	1,098



図 1-50 大阪湾生き物一斉調査の様子

➤ 漁場環境に係る調査

- ・漁場環境等の調査を継続実施。[(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所]
- ・重要水族の資源生態と漁場環境の調査を継続実施。調査結果は兵庫県立水産技術センターHPなどで情報提供。[兵庫県]

➤ 水生生物に係る調査

- ・水生生物調査（神戸海域）を継続実施。[神戸市]
- ・瀬戸内海総合水質調査の大阪湾の底質調査地点において、底生生物調査を実施。[神戸港湾事務所]

➤ 地域住民等と協働による河川水質・生物調査

- ・小中学校等と協働した水生生物調査を実施。[近畿地方整備局]

➤ 事業実施箇所におけるモニタリング調査

- ・堺2区人工干潟、阪南2区人工干潟において生物調査を実施。[大阪府]
- ・ポートアイランド2期西側護岸及び神戸空港島緩傾斜護岸において、経過観察による沿岸域生態系の形成状況に関する調査を実施。[神戸市]
- ・堺泉港堺2区生物共生型護岸でのモニタリング調査を継続実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]

➤ ホームページ等による情報発信

- ・漁場環境情報システムで水温等の環境情報を毎日提供。[兵庫県]
- ・瀬戸内海の赤潮発生情報の公表・発信を継続実施。[瀬戸内海漁業調整事務所]

e. その他

- 里海創生への支援
 - ・ウェブサイト「里海ネット」の運営継続、内容の充実。[環境省]
- 海底耕耘
 - ・海底環境を改善するため、海底耕耘を8つの組織（神戸市2、淡路市4、洲本市2）で継続実施。[漁業者組織（神戸市、淡路市、洲本市）]
- 栄養塩管理
 - ・ため池の適正な維持保全と浅場への栄養塩供給を目的とした、漁業者と農業者の連携によるため池の池干し（かいぼり）を1箇所継続実施。[漁業者組織（淡路市）]
 - ・下水処理施設において放流水中の窒素濃度を規制の範囲内で増加させる栄養塩管理運転を推進。[兵庫県]
- データ解析
 - ・大阪湾沿岸部で水質調査結果の解析、深掘り跡での水質・底質・底生生物調査を実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]
- 稚魚放流等
 - ・大阪湾の中高級魚介類資源を増やすため、ヒラメ、キジハタ、マコガレイ、アカガイ、トラフグ等の種苗生産・放流を実施。[大阪府、大阪府漁業振興基金]
 - ・水産資源の維持増大のため、マダイ、ヒラメ、オニオコゼ、マコガレイ、クルマエビ等の種苗生産、放流を実施 [兵庫県、神戸市、淡路市、洲本市、漁業関係団体]



写真提供：兵庫県

図 1-51 海底耕耘に用いる桁とその様子



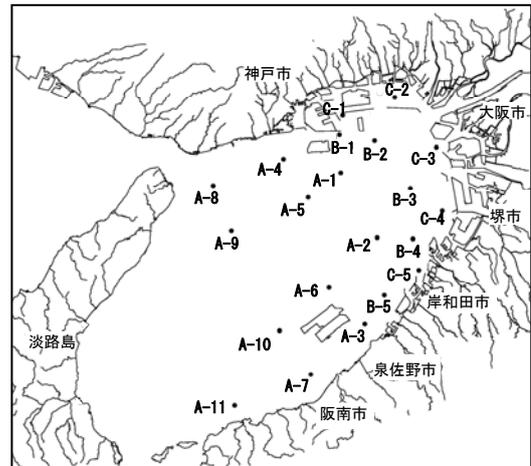
写真提供：大阪府

図 1-52 稚魚放流

2) 評価結果

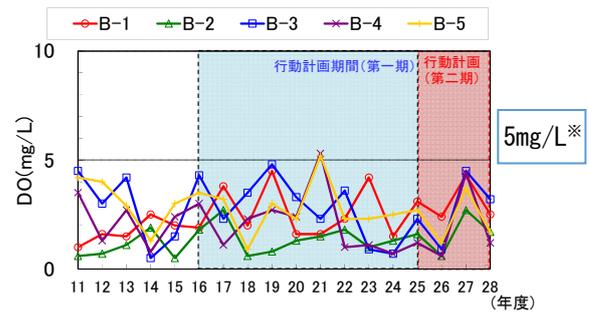
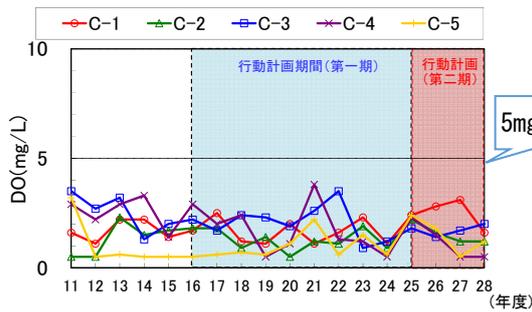
a. 底層 DO

- ・経年変化を見ると、年による変動があるものの、全体的には概ね横ばいで推移している。
- ・再生行動計画前と現在の水平分布図を比較すると、夏季では5mg/L未満の範囲は概ね再生行動計画前と同様に分布しているが、3mg/L未満の海域は六甲アイランド周辺から湾奥部へと変化した。冬季では、海域全体で5mg/L以上となっている。

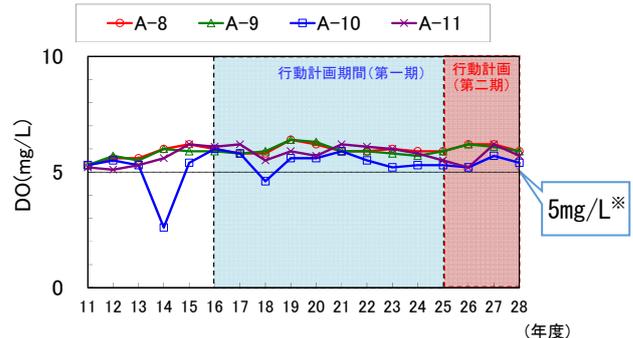
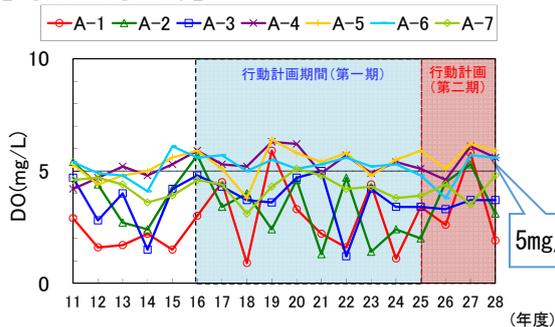


【経年変化図 年間最低値】

【湾奥部】



【湾央～湾口部】



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※評価指標値の目安：海底の生物が十分棲める底層のDOを5mg/L以上として設定した

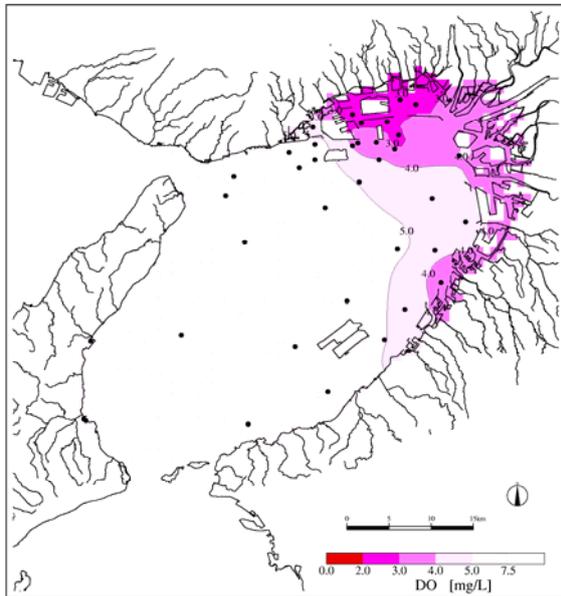
※底層DO測定結果は公共用水域水質測定結果より作成しているが、一部測定地点では測定水深が異なる。

図 1-53 底層DOの経年変化（年間最低値）

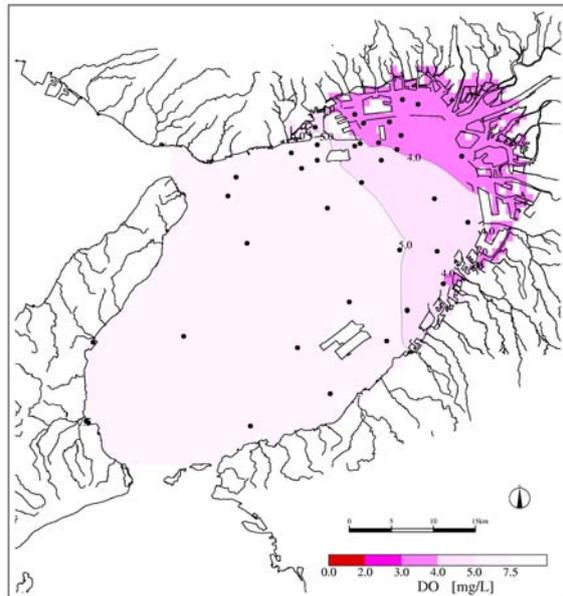
【水平分布図（底層DO）】

- ・ 夏季（6～8月）5年平均※

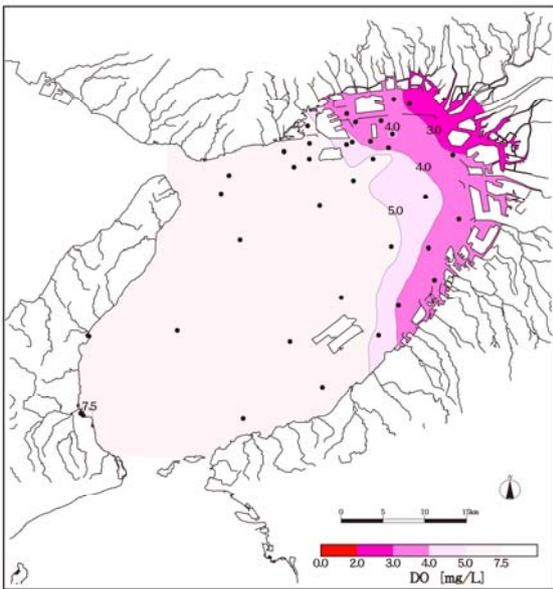
＜再生行動計画前（平成11～15年度）＞



＜第二期行動計画前（平成21～25年度）＞



＜現在（平成24～28年度）＞



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

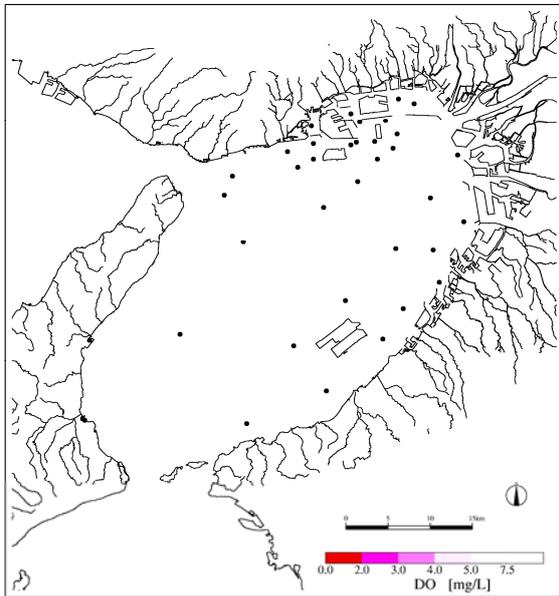
※評価指標値の目安：海底の生物が十分棲める底層のDOを5 mg/L以上として設定した

※底層DO測定結果は公共用水域水質測定結果より作成しているが、一部測定地点では測定水深が異なる。

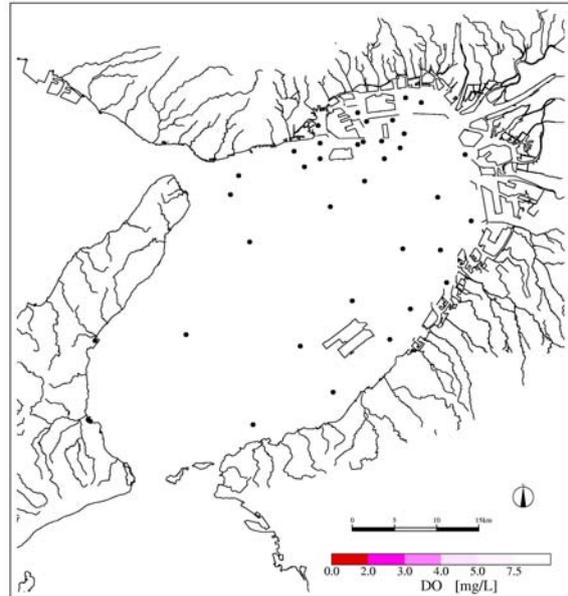
図 1-54 (1) 底層DOの水平分布（5年平均※）

・ 冬季（12～2月）5年平均*

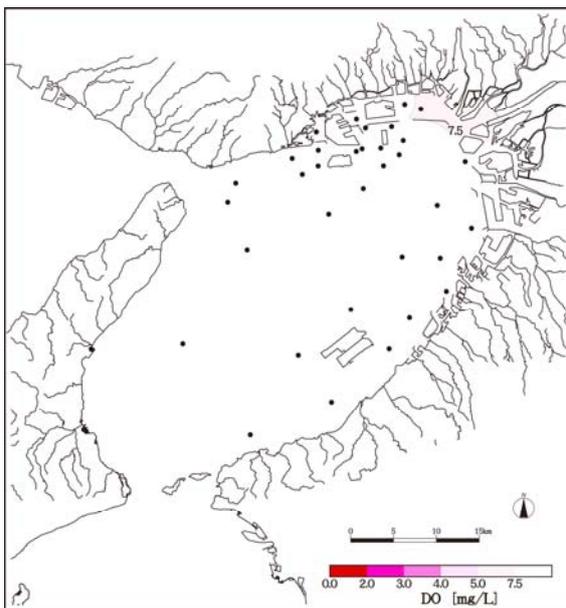
<再生行動計画前（平成11～15年度）>



<第二期行動計画前（平成21～25年度）>



<現在（平成24～28年度）>



資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

※評価指標値の目安：海底の生物が十分棲める底層のDOを5mg/L以上として設定した

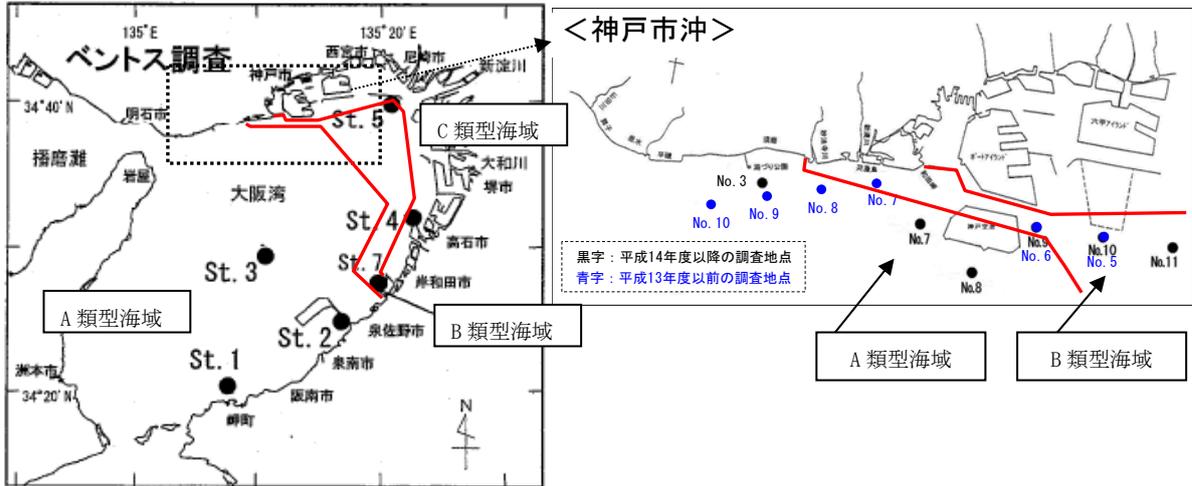
※底層DO測定結果は公共用水域水質測定結果より作成しているが、一部測定地点では測定水深が異なる。

図 1-55 (2) 底層DOの水平分布（5年平均*）

b. 底生生物（種類数）

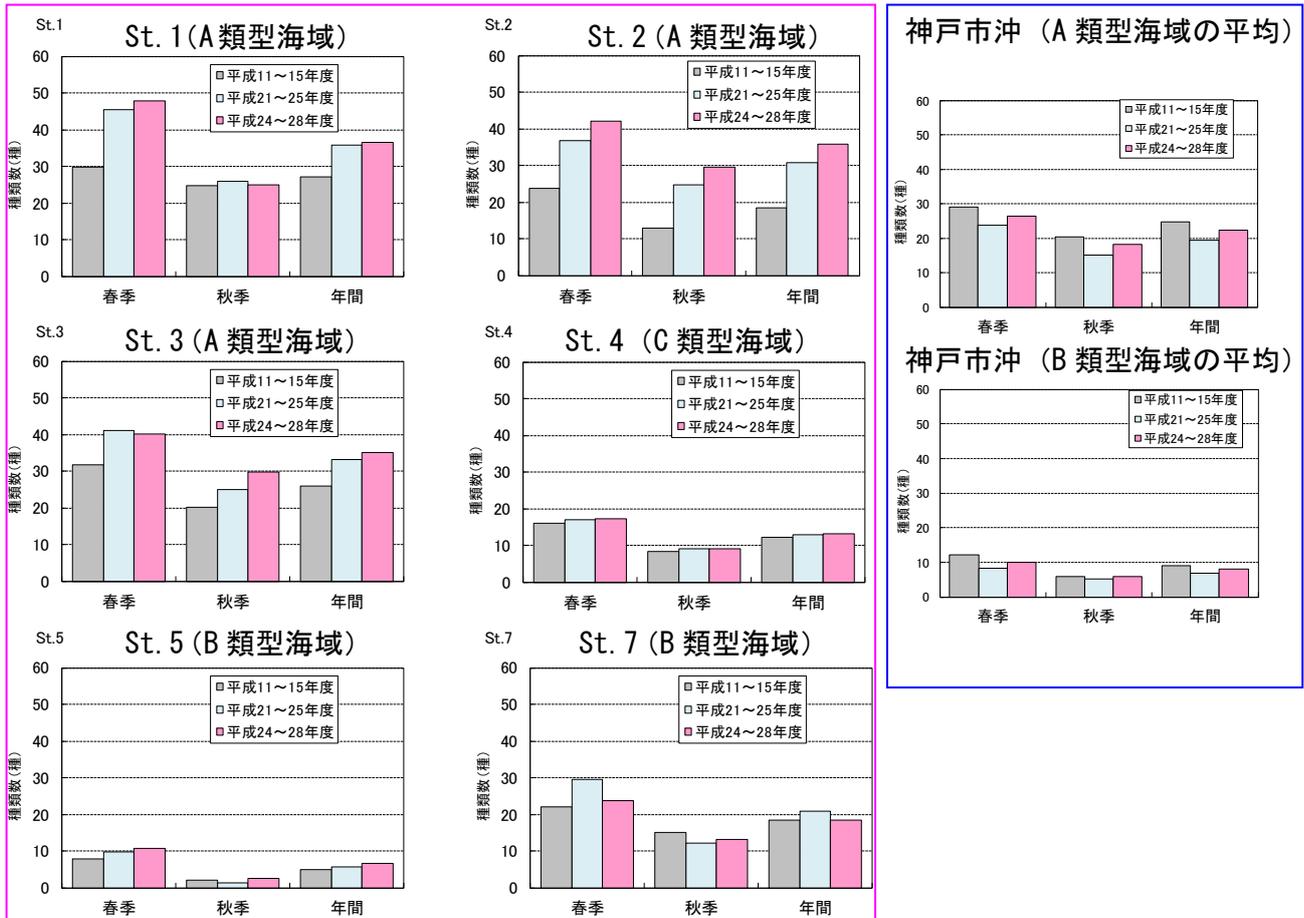
- ・種類数については、湾奥部（B・C類型海域）で少なく、湾央～湾口部（A類型海域）で多い傾向がみられる。再生行動計画前と比較すると、湾奥部（B・C類型海域）では春季で若干の増加がみられる地点があり、湾央～湾口部（A類型海域）では種類数の増加がみられる。

【変化図（底生生物・種類数）】



(大阪府域)

(兵庫県域)



資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 ((地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター) 環境水質 海域の水生生物調査 (神戸市環境局)

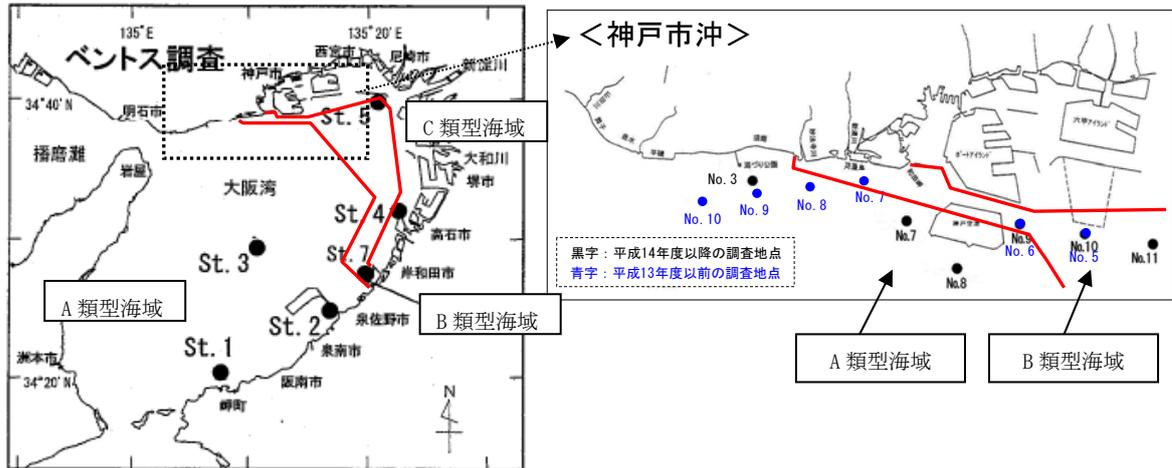
※神戸市沖: 約 0.1~0.13m² (H21, H25は約 0.15m²) 当たりの種類数、大阪府域: 0.1m²当たりの種類数

図 1-56 (1) 底生生物の変化 (種類数)

c. 底生生物（個体数）

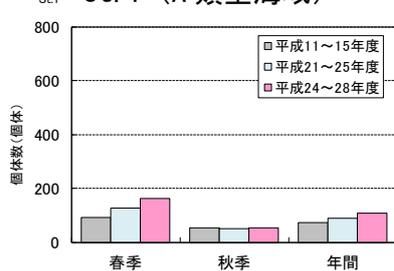
- ・個体数については、湾奥部（B・C類型海域）の東側の地点（St. 4、7）で多い傾向がみられる。再生行動計画前と比較すると、湾奥部（B・C類型海域）では横ばいまたは減少傾向がみられ、大阪府域の湾央～湾口部（A類型海域）では横ばいまたはやや増加傾向がみられる。

【変化図（底生生物・個体数）】

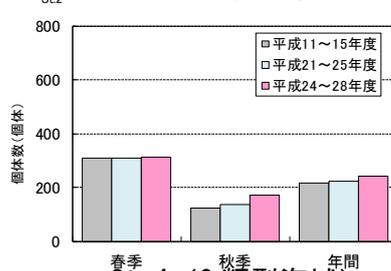


(大阪府域)

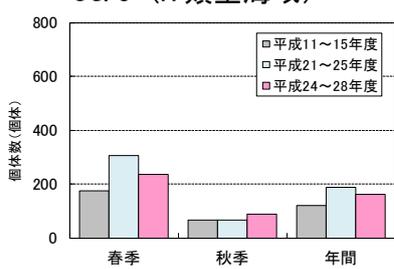
St. 1 (A 類型海域)



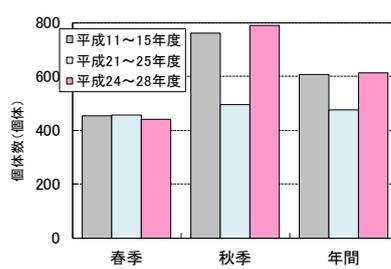
St. 2 (A 類型海域)



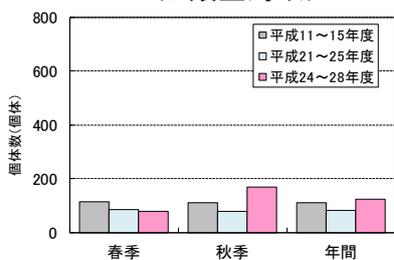
St. 3 (A 類型海域)



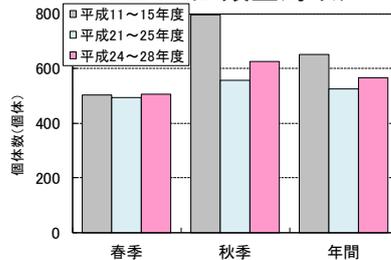
St. 4 (C 類型海域)



St. 5 (B 類型海域)

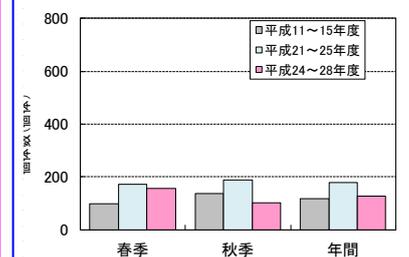


St. 7 (B 類型海域)

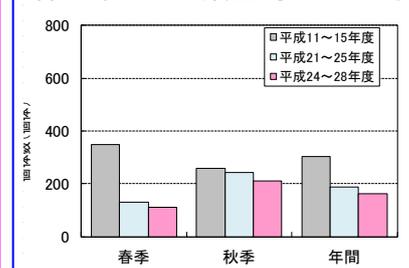


(兵庫県)

神戸市沖 (A 類型海域の平均)



神戸市沖 (B 類型海域の平均)



資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 ((地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター) 環境水質 海域の水生生物調査 (神戸市環境局)

※神戸市沖: 約 0.1~0.13m² (H21、H25 は約 0.15m²) 当たりの個体数、大阪府域: 0.1m² 当たりの個体数

図 1-57(2) 底生生物の変化 (個体数)

d. 海岸生物

- ・大阪湾生き物一斉調査で確認した生物は 801 種（水生生物群 483 種、陸生生物群 318 種）、そのうち貴重種は 96 種であった。
- ・調査シートに掲載している種については、内湾～外海型の生物がやや増加傾向にあり、河口～内湾型の生物がやや減少傾向にあった。
- ・平成 29 年度の調査テーマ「アサリとヒメアサリ」について、全 25 調査地点中、内湾性のアサリは 16 地点と広く確認されたが、外洋性のヒメアサリは神戸市西部の 1 地点のみで確認され、今回の調査ではアサリが優占する結果となった。

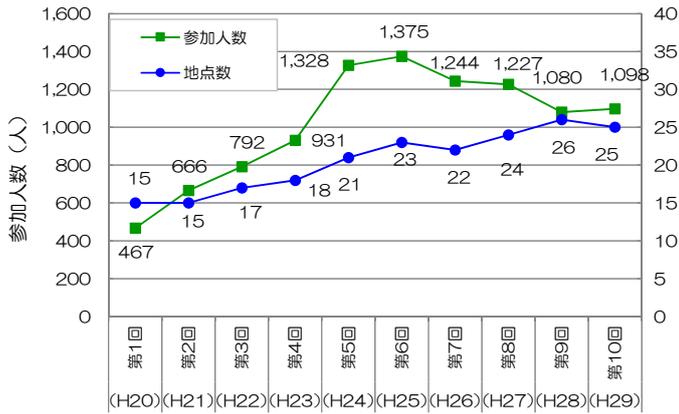


図 1-58 大阪湾生き物一斉調査実施状況

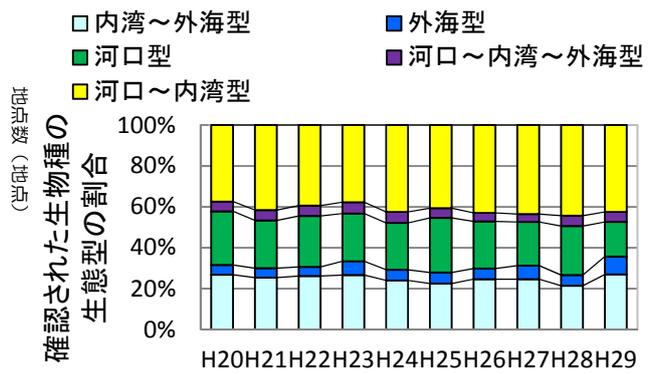


図 1-57 調査シート掲載種の生態系の確認状況

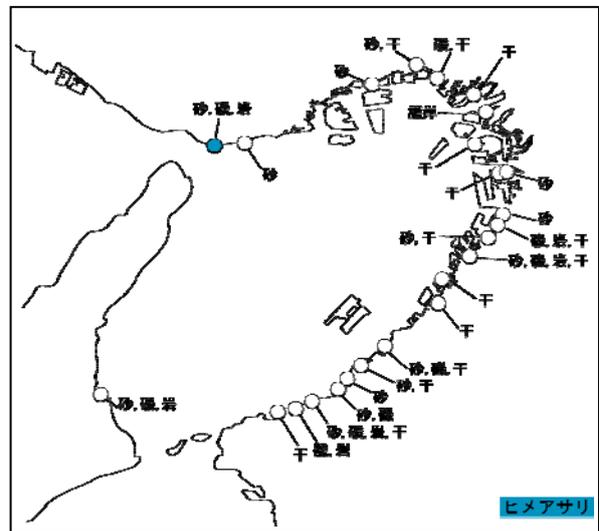
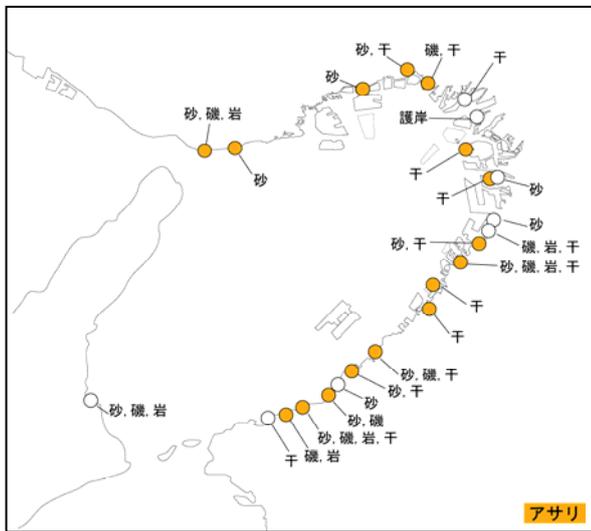


図 1-59 アサリの確認状況（平成 29 年度）

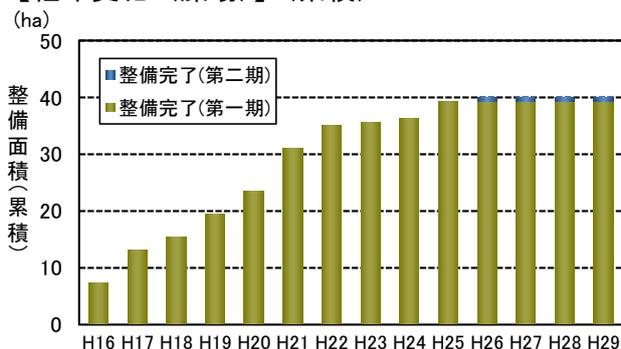
e. 藻場、干潟、浅場の整備面積及び緩傾斜護岸等の整備延長

- ・藻場の累積整備面積は 40.1ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・浅場の累積整備面積は 2.4ha（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・緩傾斜護岸の累積整備延長は 1.4km（大阪湾再生行動計画策定以降）となっている。
- ・第二期行動計画策定以降、約 0.7ha の干潟を整備した。

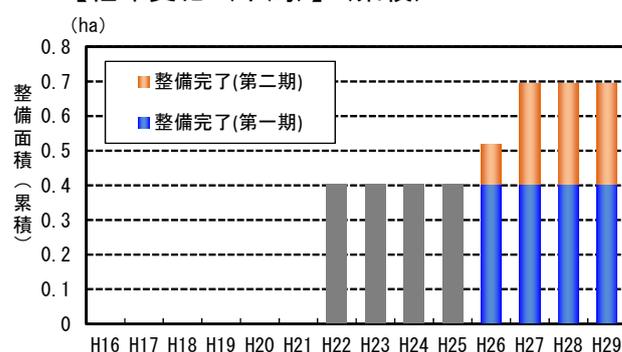


図 1-60 平成 29 年度の整備実施場所

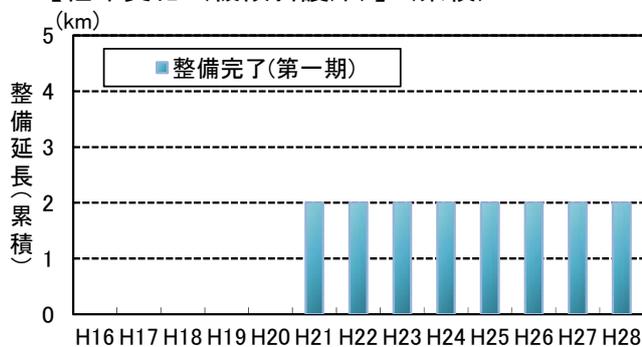
【経年変化（藻場）】（累積）



【経年変化（干潟）】（累積）



【経年変化（緩傾斜護岸）】（累積）



【経年変化（浅場）】（累積）

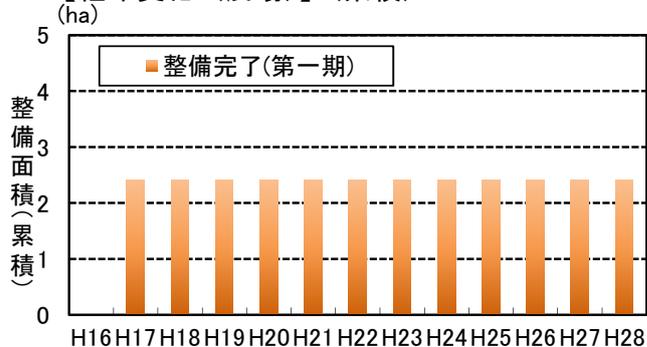


図 1-61 藻場、干潟、浅場及び緩傾斜護岸の整備状況の経年変化

2. 平成 29 年度の重点的な取り組みの成果

(1) 夏季底層 D O 改善対策強化等

栄養塩類の偏在について、平成 28 年度から設置した海域グループメンバーで構成されるプロジェクトチームにおいて、平成 29 年度も 10 月と 1 月に会議を開催し、各組織の取り組み状況、考えられる方策等、議論を行った。

平成 30 年度は、検討結果のとりまとめを行い、実施に向けた調整を行う予定である。また、阪南港（阪南 2 区沖）の窪地において、平成 29 年度も引き続き整備局発注工事で発生した浚渫土砂で窪地修復を行った。現在、整備局発注工事以外で発生する浚渫土砂の活用について調整を図っており、将来的には浚渫土砂以外に陸上残土等の活用も視野に入れ検討を実施する。

(2) 学校教育等との連携

大阪湾再生推進会議にて平成 31 年度開催予定の高校生フォーラムについて、参加候補校等 9 校に対しヒアリングを行い、高校生フォーラム開催に向けての課題について整理を行った。また、プログラム案、スケジュール案の作成を行った。

(3) 新たな主体への働きかけ

民間団体等とのネットワーク強化の一環として、一般企業等と連携・協働した広報、情報発信の方策について検討を行った。「(仮)大阪湾再生巡回展」については、「かもめりあ：神戸港」にて平成 30 年 3 月上旬に実施予定である。

一般企業との連携・協働の実施内容

ステップ①：『情報発信』：大阪湾再生計画や大阪湾の現状・課題に対する認識・知識を高める。

ステップ②：『体験活動』：大阪湾再生の取組を協働で実行・体験・経験する。

ステップ③：『大阪湾再生の行動』：企業や社員個人が出来る取組の実行に発展させる。



ステップ①：一般企業等と連携・協働した広報、情報発信の方策

- ・民間集客施設等での「(仮)大阪湾再生巡回展」：商業施設、駅舎、道の駅、川の駅などでの「大阪湾再生」に関する写真、パネル、生き物、回収ゴミ、高校生研究パネル等の展示
- ・「啓発パネル、ポスター」の掲示協力：一般企業社内、商業施設、銀行、交通機関・駅、大学・高校、研究機関・ミュージアム等での大阪湾再生に関するパネルやポスターの掲示
- ・民間企業、団体等を対象とした「(仮)大人の社会見学」：大阪湾再生計画の出前講座、活動内容の見学・体験会

3. アピールポイントでの活動状況

(1) アピールポイントの設定状況

- ・設定したアピールポイントを図 3-1 に、アピールポイントに含まれるエリア、親水施設等を表 3-1 に示す。

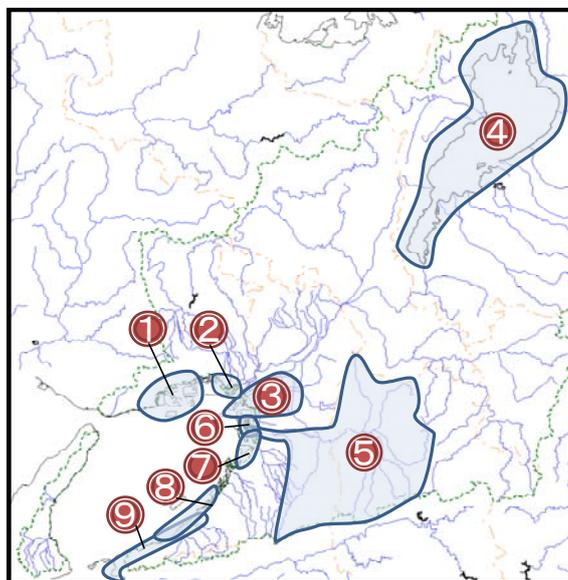


図 3-1 アピールポイント

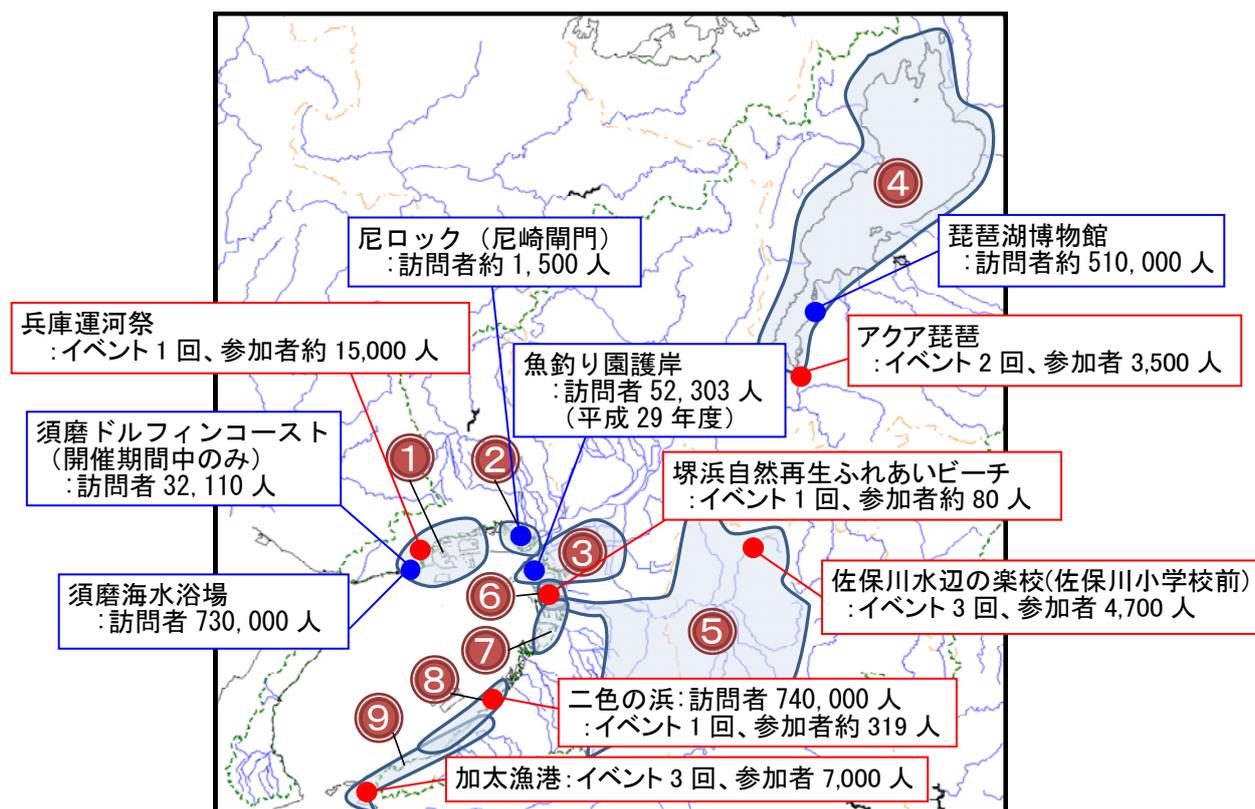
表 3-1 アピールポイントに含まれるエリア及び親水施設等

アピールポイント	アピールポイントに含まれるエリア	親水施設等
① 潮風かおる港町神戸	須磨海岸、兵庫運河、ハーバーランド～HAT神戸、ポートアイランド、神戸空港	須磨海岸、須磨海水浴場、須磨ドルフィンコースト、神戸ポートタワー、神戸空港人工海水池など
② 水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺	尼崎運河周辺、甲子園浜周辺	水質浄化施設、尼ロック（尼崎閘門）防災展示室、県立甲子園浜海浜公園など
③ まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺	中之島、舞洲～夢洲、咲洲	中之島公園、人工磯、サンタマリア（周遊船）、野島園臨港緑地
④ 豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖	琵琶湖	アクア琵琶、琵琶湖博物館、水泳場・マリナーなど
⑤ 市民が参加した川づくりが進む大和川	大和川流域（大和川本川・支川）	佐保川水辺の楽校（佐保川小学校前）、大安寺河川公園（大安寺西小学校前）、佐保せせらぎの里（奈良県法蓮町）など
⑥ 海に親しめる多様な場がある堺の海辺	堺浜、堺旧港	堺浜自然再生ふれあいビーチ、堺2区生物共生型護岸、堺旧港など
⑦ 海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港	堺（出島）漁港、高石漁港	堺（出島）漁港、高石漁港
⑧ 海水浴やマリンスポーツが楽しめる阪南・泉南の海岸	二色の浜、せんなん里海公園	二色の浜公園、海浜緑地（ジャリ浜）、さとうみ磯浜、箱作海水浴場、せんなん里海公園、淡輪海水浴場など
⑨ 海の恵みを楽しめる泉南の漁港	佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、深日漁港、小島漁港、加太漁港	佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、深日漁港、とっとパーク小島（釣り公園）、加太漁港

(2) アピールポイント毎の状況

アピールポイントにおける主な親水施設等への訪問状況及びイベントの開催状況は図3-2のとおりである。

施設の訪問者数及びイベントの開催状況等は、各機関から報告のあったものを示している。



注) 図中の青枠は訪問状況、赤枠はイベント開催状況である。

図 3-2 主な親水施設等への訪問状況及びイベントの開催状況

① 潮風かおる港町神戸

- ・須磨海水浴場や須磨海浜水族園等、訪問者数が73万人以上の親水施設等が整備されている。
- ・須磨海岸では海域でイルカを自由に遊泳させるドルフィンコーストプロジェクト等のイベント、須磨海浜水族園では飼育員による生き物教室、神戸ポートタワーでは様々な季節の行事を開催し、ホームページやポスター、チラシ等でのPRにより多くの参加者が得られた。
- ・神戸マラソンは美しい瀬戸内海と六甲の山並みを背景としたコースが人気となっており、約2万人がランナーとして参加した。
- ・多様な親水施設を活用したイベントが開催され、多くの訪問者数、参加者数を得ていることから、今後も施設を活用したイベントを開催し、PRしていくことが望ましい。

表 3-2 港町神戸における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況		
	親水施設等名称	訪問者数(人)	親水施設等名称	イベント名称(回数)	参加者数(人)
須磨海岸、須磨海水浴場、須磨ドルフィンコースト、神戸ポートタワー、神戸空港人工海水池等	須磨海水浴場	730,000	須磨海岸	大阪湾生き物一斉調査(1回)	19
	須磨ドルフィンコースト	32,110		須磨ドルフィンコーストプロジェクト(132回)	13,404
	須磨海浜水族園	836,190	須磨海浜水族園	ラボ・スクール(63回/10月末)	17,124(63/10月末)
	神戸ポートタワー	348,500	兵庫運河	兵庫運河祭(1回)	15,000
			ポートアイランド	神戸マラソン(1回)	19,709
			神戸空港人工海水池	ウミガメエコツアーリズム(2回)	300



写真提供：須磨海浜水族園
図 3-3 須磨ドルフィンコースト



写真提供：神戸市
図 3-4 兵庫運河祭

② 水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺

- ・尼ロック（尼崎閘門）防災展示室では、ホームページ等でのPRにより、訪問者が2,500人（見込み）であった。
- ・尼崎運河の水質浄化施設では環境学習会や博覧会を20回開催し、約2,600人（見込み）の参加があった。
- ・尼ロック（尼崎閘門）では特別展で1,500名程度の参加があり、のびのび公園では尼海への恩返しイベントを12回開催（見込み）した。
- ・甲子園浜海浜公園では、継続して大阪湾生き物一斉調査を実施し、59人の参加があった。
- ・尼崎運河周辺の親水施設を活用した環境学習会等の多彩なイベントが毎年開催され、多くの参加者を得ていることから、今後も環境学習等のイベントを通して水に親しむ機会を創出していくことが望ましい。

表 3-3 尼崎・西宮における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況		
	親水施設等名称	訪問者数(人)	親水施設等名称	イベント名称(回数)	参加者数(人)
水質浄化施設、尼ロック(尼崎閘門)防災展示、県立甲子園浜海浜公園など	尼ロック(尼崎閘門)防災展示室	2,500(見込み)	尼崎運河周辺水質浄化施設	環境学習会・尼崎運河博覧会(8回)	2,600(見込み)
	尼崎市立魚つり公園	47,674(H27年度)	尼ロック(尼崎閘門)	尼ロック・防災特別展(1回)	1,500
			のびのび公園	尼海への恩返し(6回)	300
			尼崎市立魚つり公園	釣り大会・チヌダービー、稚魚の放流(4回)	47,674(H27年度)
			県立甲子園浜海浜公園	大阪湾生き物一斉調査(1回)	59



写真提供：兵庫県

図 3-5 尼ロックの施設見学

③ まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺

- ・魚釣り園護岸は5万人程度の訪問者があった。
- ・大阪マラソンは大阪市の中心部から中之島を經由して咲洲までを走行するコースであり、13万人以上の参加者があった。
- ・大阪・光の饗宴 2017 では期間中（平成 29 年度 11 月 12 日～平成 12 月 31 日）に2つのコアプログラムと大阪府域 23 のエリアプログラムで約 1,367 万人の参加があり、各プログラムに対して約 9 割の人が良かったと回答した。
- ・野鳥園臨港緑地では大阪湾生き物一斉調査を実施し、「色々な生き物を調査してたくさん生き物が見れて良かったです。また色々な生き物を見たいです。」等の感想があった。
- ・まちなかの水辺・海辺空間を活用したイベント等が開催され、多くの参加者が得られていることから、今後もこれらを活用して水に親しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-4 水都大阪における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況	
	親水施設等名称	訪問者数(人)
中之島公園、人工磯、サンタマリア(周遊船)、野鳥園臨港緑地など	魚釣り園護岸	52,303(H29)

イベントの開催状況		
親水施設名称等	イベント名称(回数)	参加者数(人)
大阪市内	大阪マラソン(1回)	130,417
大阪府域	大阪・光の饗宴2017(1回)	1,367万
野鳥園臨港緑地	大阪湾生き物一斉調査(1回)	35



©大阪・光の饗宴実行委員会

図 3-6 御堂筋イルミネーション 2017
シャンパンゴールドミックス
(瓦町～中央大通)



©大阪・光の饗宴実行委員会

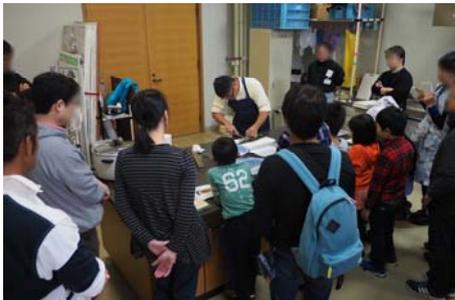
図 3-7 OSAKA 光のルネサンス 2017
ウォールタペストリー
大阪市中央公会堂特別公演

④ 豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖

- ・アクア琵琶や琵琶湖博物館等の学習施設、びわ湖クルーズや、水泳場・マリーナ等の親水施設で多くの訪問者があった。
- ・平成 28 年度に引き続いて、学習施設や琵琶湖を活用したイベントを定期的で開催し、ホームページやチラシ等でPRすることにより、アクア琵琶では 3,500 人（見込み）、琵琶湖博物館では 8,200 人（見込み）の参加があった。
- ・外来魚駆除釣り大会は、今年度は 3 回開催し、1,000 人以上の参加があった。
- ・琵琶湖周辺の親水施設に多くの人を訪れると共に、琵琶湖などでの多彩なイベントが開催されていることから、今後も豊かな自然と歴史を感じられるイベント等を開催していくことが望ましい。

表 3-5 琵琶湖における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況		
	親水施設等名称	訪問者数(人)	親水施設名称等	イベント名称(回数)	参加者数(人)
アクア琵琶、琵琶湖博物館、水泳場・マリーナなど	アクア琵琶	30,000(見込み)	アクア琵琶	「水辺の匠」イベント(2回)	3,500(見込み)
	琵琶湖博物館	510,000(見込み)	琵琶湖博物館	びわ博フェス・博物館・見学会・講座など(63回)	8,200(見込み)
	びわ湖クルーズ	396,538(見込み)	琵琶湖	外来魚駆除釣り大会(大津港)(3回)	1,167
	水泳場・マリーナ	691,600(見込み)			



写真提供：琵琶湖博物館

図 3-8 琵琶湖博物館のイベント



写真提供：滋賀県

図 3-9 外来魚駆除釣り大会

⑤ 市民が参加した川づくりが進む大和川

- ・水辺の楽校や河川公園等で清掃活動、祭り、コンサート等を定期的に行き、学校通信やホームページ等でPRを行っている。
- ・イベント参加者は、佐保川水辺の楽校では 4,700 人（見込み）、大安寺河川公園では 1,530 人（見込み）、佐保せせらぎの里では 1,200 人（見込み）であった。
- ・水辺の楽校、河川公園等の親水施設を活用して多彩なイベントを開催し、多くの参加者が得られていることから、今後も清掃活動等により市民参加を促進していくことが望ましい。

表 3-6 大和川におけるイベント開催状況

イベントの開催状況		
親水施設名称等	イベント名称(回数)	参加者数(人)
佐保川水辺の楽校(佐保川小学校前)	小学生による清掃活動、わいわい祭り、水辺のコンサート(3回)	4,700(見込み)
大安寺河川公園(大安寺西小学校前)	川辺のまちづくり、大和川一斉清掃、「奈良県山の日・川の日」川の清掃デー(3回)	1,530(見込み)
佐保せせらぎの里(奈良市法蓮町)	昭和35年より継続する地域住民による清掃活動(1回)	1,200(見込み)



写真提供：奈良県

図 3-10 佐保川水辺の楽校：わいわい祭り



写真提供：奈良県

図 3-11 佐保川水辺の楽校



写真提供：奈良県

図 3-12 大安寺河川公園
川辺のまちづくり清掃活動



写真提供：奈良県

図 3-13 佐保せせらぎの里：佐保川清掃

⑥ 海に親しめる多様な場がある堺の海辺

- ・海辺での生物調査や清掃活動、大阪湾再生に関する学習等の様々なイベントを開催し、市の広報紙やホームページ等に記事を掲載している。「堺浜自然再生ふれあいビーチ！」では、「イベントがなくとも砂浜に遊びに行きたい」等のアンケート回答があった。
- ・堺浜自然再生ふれあいビーチと堺2区生物共生型護岸は場所が近く、場の環境が異なっていることから、1つのイベントで2箇所を使用している。
- ・堺旧港の史跡旧堺灯台の公開では、市の広報紙やホームページ等に記事を掲載し、2日間で約600人の参加があった。
- ・場の環境が異なる親水施設や史跡を生かしたイベントを持続的に開催し、参加者からよい評価を得られていることから、今後もイベントを継続し、海に親しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-7 堺の海辺におけるイベント開催状況

イベントの開催状況		
親水施設名称等	イベント名称(回数)	参加者数(人)
堺浜自然再生ふれあいビーチ	堺浜ふれあいビーチで遊ぼう!(1回)	80
堺浜自然再生ふれあいビーチ、堺2区生物共生型護岸	大阪湾の再生～堺浜での取り組み(1回)	11
	大阪湾生き物一斉調査(1回)	71
堺旧港	史跡旧堺灯台公開(1回/2日)	600



写真提供：堺市



写真提供：堺市

図 3-14 史跡旧堺灯台の公開

図 3-15 堺2区生物共生型護岸での海の生き物観察



写真提供：堺市

図 3-16 ふれあいビーチでの清掃

⑦ 海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港

- ・漁港を活用した体験学習やとれとれ市を定期的で開催し、市の広報紙やホームページ等を活用して記事を掲載している。
- ・自然体験学習「堺の海・再発見」のアンケートでは、「内容がとてもよかった」と回答した人の割合が100%であり、「釣り体験、漁師さんのお話、水質調査の話、魚の話など盛りだくさんで楽しかったです。」等の感想があった。
- ・漁港で市場を開催して多くの参加者を得ると共に、自然体験学習の場としても活用してよい評価を得られていることから、今後も多彩なイベントを開催し、海の恵みを楽しめる機会を創出していくことが望ましい。

表 3-8 堺・高石の漁港におけるイベント開催状況

イベントの開催状況		
親水施設名称等	イベント名称(回数)	参加者数(人)
堺(出島)漁港	自然体験学習「堺の海・再発見」(1回)	21
堺漁港	とれとれ市場(約100回)	26,000(見込み)



写真提供：堺市

図 3-17 自然体験学習「堺の海・再発見」



写真提供：大阪府

図 3-18 堺出島漁港のとれとれ市

⑧ 海水浴やマリレジャーが楽しめる阪南・泉南の海岸

- ・二色の浜公園では74万人（見込み）、せんなん里海公園では46万人（見込み）の訪問があった。
- ・各公園の施設を活かしたスポーツフェスティバルや調査、見学会、シュノーケリング体験等の様々なイベントを継続的に実施し、公園のホームページやチラシ等でPRしている。
- ・親水公園や海浜等の親水施設に多くの方が訪れると共に、これらの施設を活用した多彩なイベントを継続して開催していることから、今後も海水浴やマリレジャーを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。

表 3-9 阪南・泉南の海岸における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況	
	親水施設等名称	訪問者数(人)
二色の浜公園、海浜緑地(ジャリ浜)人工磯、箱作海水浴場、せんなん里海公園、淡輪海水浴場など	二色の浜公園	740,000(見込み)
	せんなん里海公園	460,000(見込み)

イベントの開催状況		
親水施設名称等	イベント名称(回数)	参加者数(人)
二色の浜公園	二色の浜オータムフェスティバル(1回)	319
	アマモ場再生活動(3回)	200
せんなん里海公園	みんなでわかめを育てよう(ワカメ植え付け収穫祭)(2回)	160(見込み)
	大阪湾シュノーケリング体験(1回)	20
	海の栄養でお花を咲かせよう(2回)	20
	みんなでつくる豊かな大阪湾プロジェクト(3回)	66
	大阪湾クルーズ(1回)	16
	淡輪箱作海岸、磯浜見学会(1回)	60
	ウミホテルウォッチング(1回)	59
	せんなん里海さくらフェス(1回)	5000
	大阪湾生き物一斉調査(1回)	60



図 3-19 ウミホテルウォッチング



写真提供：大阪府

図 3-20 せんなんオータムフェスティバル

⑨ 海の恵みを楽しめる泉南の漁港

- ・とっとパーク小島（釣り公園）の訪問者数は約4万人（見込み）であった。
- ・漁港を活用した青空市やタコカーニバル、ふれあいフェスタ、生物調査や祭り等の様々なイベントを開催してパンフレットやホームページ等でPRし、多くの参加があった。
- ・加太漁港での祭りはチラシやホームページ、フェイスブック等でのPRにより、2回で7,000人（見込み）の参加があった。
- ・釣り公園では毎年多くの人々が訪れ、6箇所の漁港では市場や祭り等を定期的に開催して多くの参加者を得ていることから、今後も海の恵みを楽しめる場や機会を創出していくことが望ましい。

表 3-10 泉南の漁港における施設の訪問状況とイベント開催状況

親水施設等	施設毎の訪問者の状況		イベントの開催状況		
	親水施設等名称	訪問者数(人)	親水施設名称等(回数)	イベント名称(回数)	参加者数(人)
佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、深日漁港、とっとパーク小島（釣り公園）、加太漁港	とっとパーク小島（釣り公園）	39,000(見込み)	佐野漁港	泉佐野青空市場(310回)	不明
			田尻漁港	日曜朝市(約50回)	120,000(見込み)
			岡田漁港	岡田浦日曜青空朝市(約50回)	23,000(見込み)
			深日漁港干潟	大阪湾生き物一斉調査(1回)	29
				深日漁港ふれあいフェスタ	台風により中止
加太漁港	桜鯛祭り(1回)	4,000			
	紅葉鯛祭り(1回)	3,000			
	昼市(9回)	1,000			



写真提供：大阪府

図 3-21 田尻漁港



写真提供：和歌山県

図 3-22 紅葉鯛祭り